第６期長沼町総合振興計画後期基本計画策定に係る

町民アンケート調査結果

令和６年１１月

北海道長沼町

1. 調 査 概 要

調査概要 ・・・・・・・・ 1

2. 調 査 結 果

■回答者の属性
問１　あなたの性別は？ ・・・・・・・・ 2
問２　あなたの年齢は？ ・・・・・・・・ 2
問３　あなたがお住まいの地区は？ ・・・・・・・・ 3
問４　あなたは長沼町に住んで何年になりますか？ ・・・・・・・・ 4
問５　あなたのお勤め先と職業は？ ・・・・・・・・ 6

■居住意向
問６　長沼町は、住みよいと思いますか？ ・・・・・・・・ 8
問７　あなたは、今後とも長沼町で暮らしたいですか？ ・・・・・・・・ 11
問８　問７で「２．他の市町村へ転出したい」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？ ・・・・・・・・ 14
問９　長沼町への定住を進め人口を増やすためには、町はどのようなことを重点的にすべきと思いますか？ ・・・・・・・・ 18

■町政の満足度と重要度
問 10　それぞれ施策に対する「満足度」と「重要度」 ・・・・・・・・ 22

■長沼町のまちづくりについて
問 11　将来長沼町がどのような町になることを望みますか？ ・・・・・・・・ 31
問 12　長沼町のまちづくりについて、ご意見やご提案をお持ちでしたらご記入願います。（自由記載） ・・・・・・・・ 35

3. 課　題

調査結果から見える主な政策課題 ・・・・・・・・ 42

1. 調 査 概 要

■調査の趣旨

「第６期長沼町総合振興計画後期基本計画」（以下、「後期基本計画」という。）を作成するにあたり、町民の意見を幅広く反映させるためアンケート調査を行い、後期基本計画の策定に資する基礎資料を得るとともに、町民の意識や意向を把握することで、今後のまちづくりに反映させる。

■調査の方法

・調査対象　　町内在住の方

・調査方法　　「広報ながぬま」令和６年９月号に調査票を同梱し各世帯へ配布
郵送または web（長沼町公式 LINE）により回答を回収

・調査時期　　令和６年９月

・回答結果　　配布数 4,523、回収数 1,020（郵送 852、web168）

■調査結果の見かた

・比率については、小数点以下第２位を四捨五入しており、比率の合計が 100%にならない場合がある。
・１人の回答者に２つ以上の回答を認めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
・本文中の「ｎ」は、その設問の有効回答者数を示す。ただし、問１～問７については、無回答等を含めたすべての回答者数を「ｎ」とした。
・本文中の表、グラフにおける選択肢表記は、見やすさへの配慮のため語句を簡略化している場合がある。

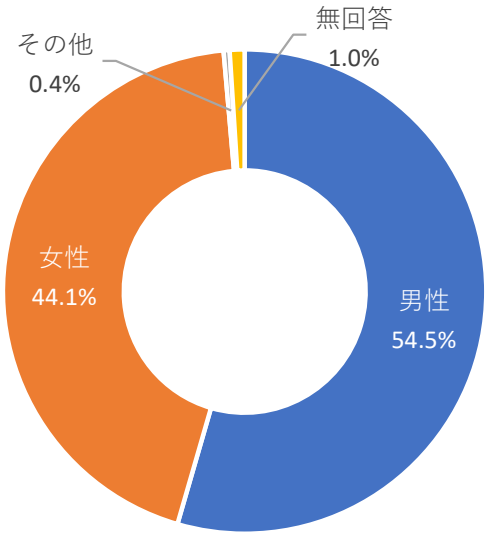
2. 調 査 結 果

問１　あなたの性別は？

【n＝1,020】

回答者の性別割合は、男性 54.5%、女性 44.1%、その他 0.4%となっている。

区　　分	回 答 数	比　　率
男性	556	54.5%
女性	450	44.1%
その他	4	0.4%
無回答	10	1.0%
計	1,020	100.0%

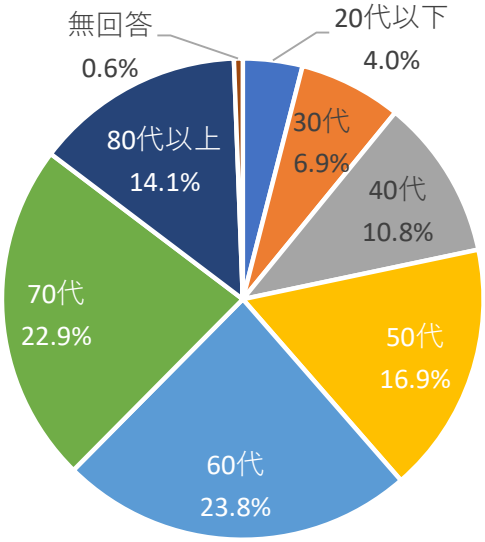


問２　あなたの年齢は？

【n＝1,020】

回答者の年齢は、60 代が最も多く 23.8%で、60 代以上の回答者が全体の約 6 割を占める。逆に、30 代以下の割合は 10.9%である。

区　　分	回 答 数	比　　率
20代以下	41	4.0%
30代	70	6.9%
40代	110	10.8%
50代	172	16.9%
60代	243	23.8%
70代	234	22.9%
80代以上	144	14.1%
無回答	6	0.6%
計	1,020	100.0%

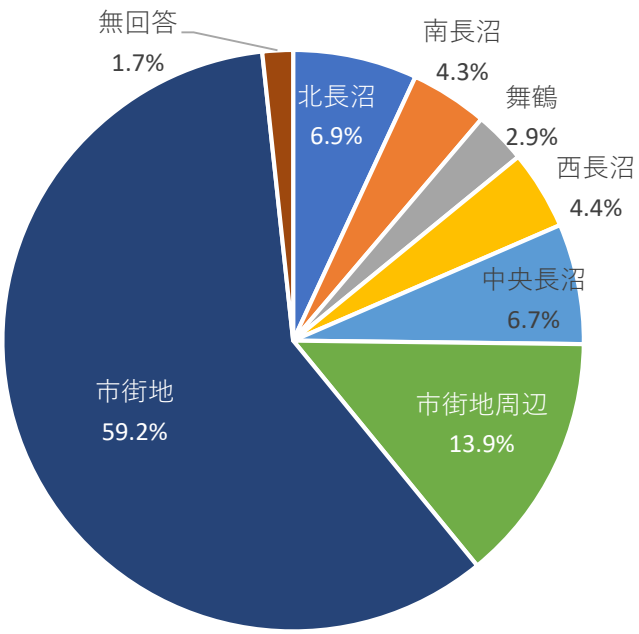


問３　あなたがお住まいの地区は？

【n＝1,020】

回答者の居住地区は、市街地地区が 59.2%と約 6 割を占め、以下、市街地周辺地区 13.9%、北長沼地区 6.9%、中央長沼地区 6.7%、西長沼地区 4.4%、南長沼地区 4.3%、舞鶴地区 2.9%と続く。

区　　分	回答数	比　率
北長沼地区（1～5区、7～8区、北市区）	70	6.9%
南長沼地区（17～18区、20～22区、27区）	44	4.3%
舞鶴地区　（23～24区、31区）	30	2.9%
西長沼地区（28～30区）	45	4.4%
中央長沼地区（6区、19区、25～26区）	68	6.7%
市街地周辺地区（9～16区、馬追台区）	142	13.9%
市街地地区（上記以外の行政区）	604	59.2%
無回答	17	1.7%
計	1,020	100.0%

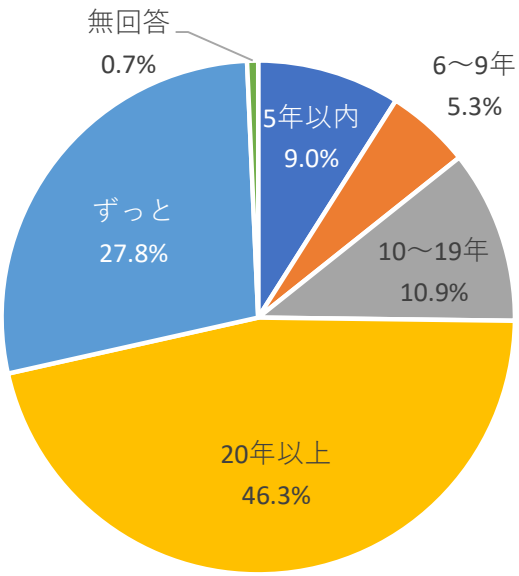


問４　あなたは長沼町に住んで何年になりますか？

【n＝1,020】

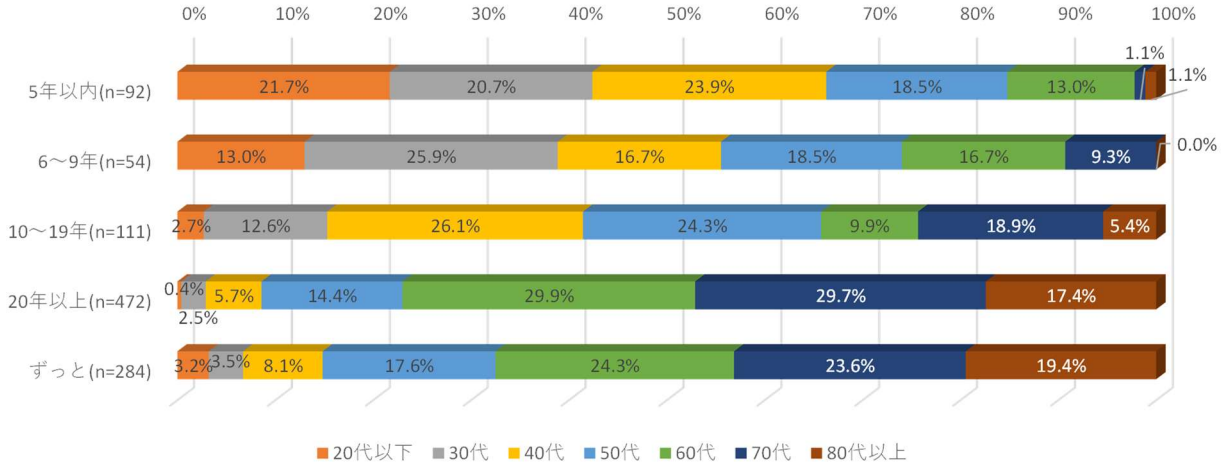
回答者の居住年数は、「20 年以上」が最も多く 46.3%で、次に多い「生まれてからずっと」と合わせると７割を超える。一方、「５年以内」の新規住民も 9.0%を占める。

区　　分	回 答 数	比　　率
5年以内	92	9.0%
6～9年	54	5.3%
10～19年	111	10.9%
20年以上	472	46.3%
ずっと	284	27.8%
無回答	7	0.7%
計	1,020	100.0%



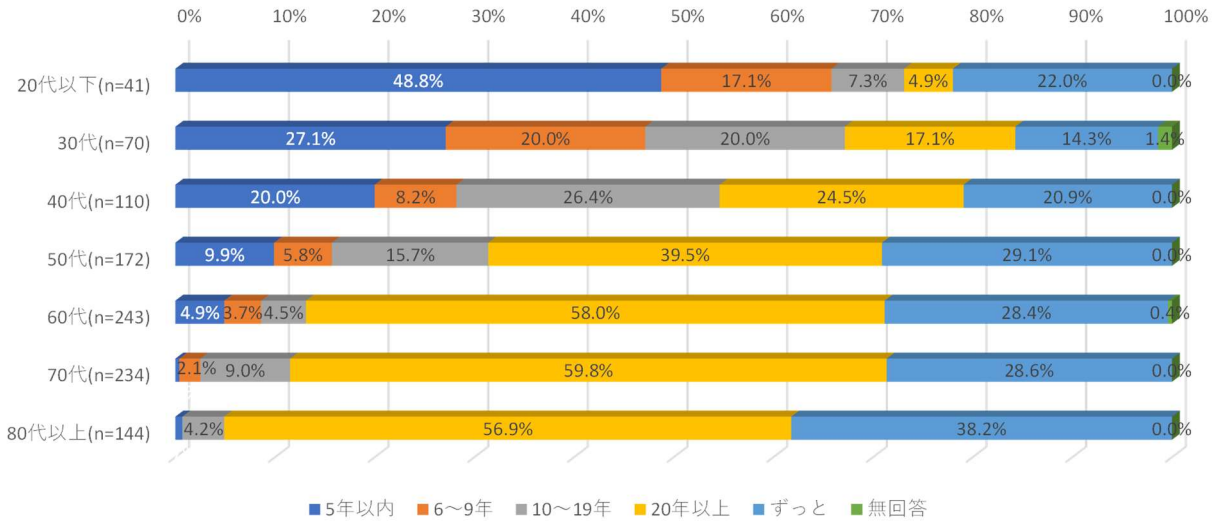
■年代別の居住年数

年代別に見ると、居住年数が「20 年以上」では約 8 割、「生まれてからずっと」では約 7 割を 60 代以上が占めている。反面、「5 年以内」では 40 代以下が 7 割近くを占めており、若い世代の移住が促進されているものと推測される。



また、年代別の居住年数割合を見ると、40 代以下では「5 年以内」「6～9 年」「10～19 年」の合計割合が 5 割以上となっており、若い世代の回答者については、半数以上が町外からの移住者であると推測される。

一方、60 代以上では「20 年以上」「生まれてからずっと」の割合が約 9 割を占めており、高齢者世代の回答者については、そのほとんどが長沼町に長年居住している者であることがわかる。

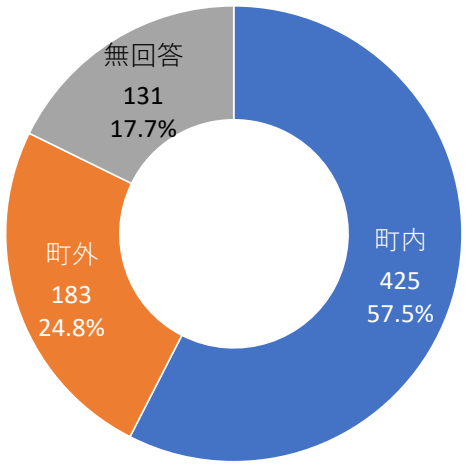


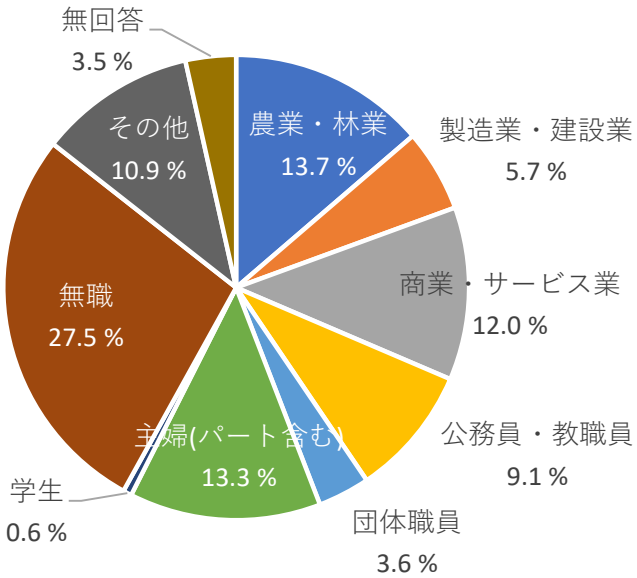
問５　あなたのお勤め先と職業は？

（兼業の方は主となる職業をお答えください）　　**【n＝1,020】**

回答者（無職の方を除く）の勤務先は、町内 57.5%、町外 24.8%であった。
職業については、「無職」が 27.5%と最も多く、以下「農業・林業」13.7%、「主婦（パート含む）」13.3%、「商業・サービス業」12.0%と続く。

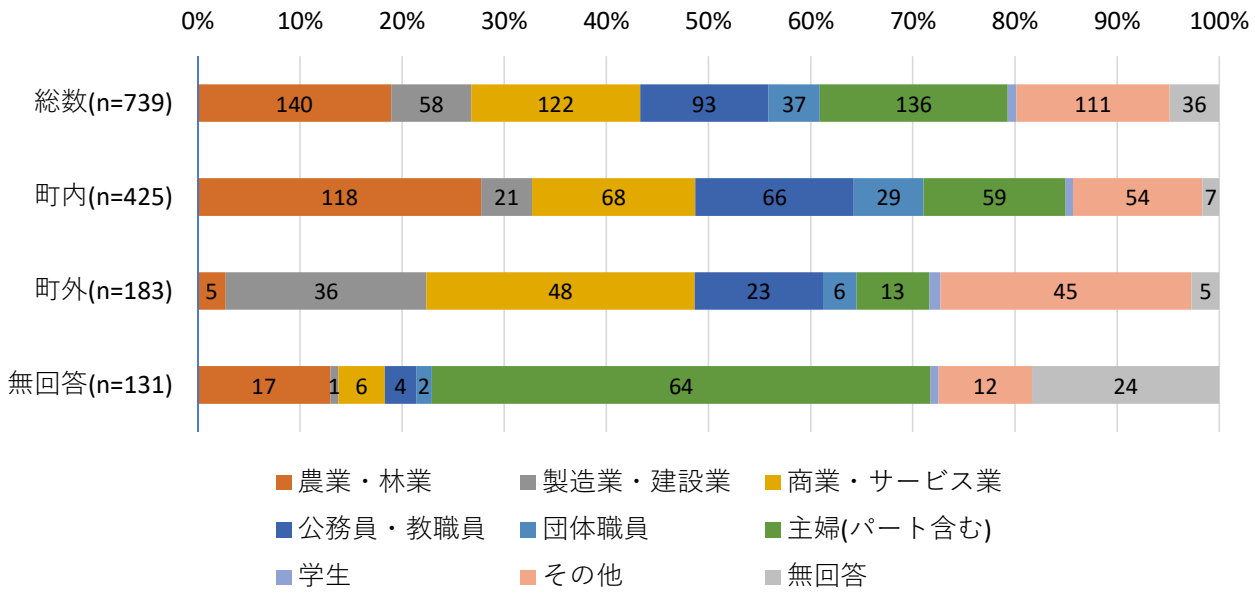
区　分	町内	町外	無回答	総数	比 率
農業・林業	118	5	17	140	13.7 %
製造業・建設業	21	36	1	58	5.7 %
商業・サービス業	68	48	6	122	12.0 %
公務員・教職員	66	23	4	93	9.1 %
団体職員	29	6	2	37	3.6 %
主婦(パート含む)	59	13	64	136	13.3 %
学生	3	2	1	6	0.6 %
無職	21	2	258	281	27.5 %
その他	54	45	12	111	10.9 %
無回答	7	5	24	36	3.5 %
計	446	185	389	1,020	100.0 %





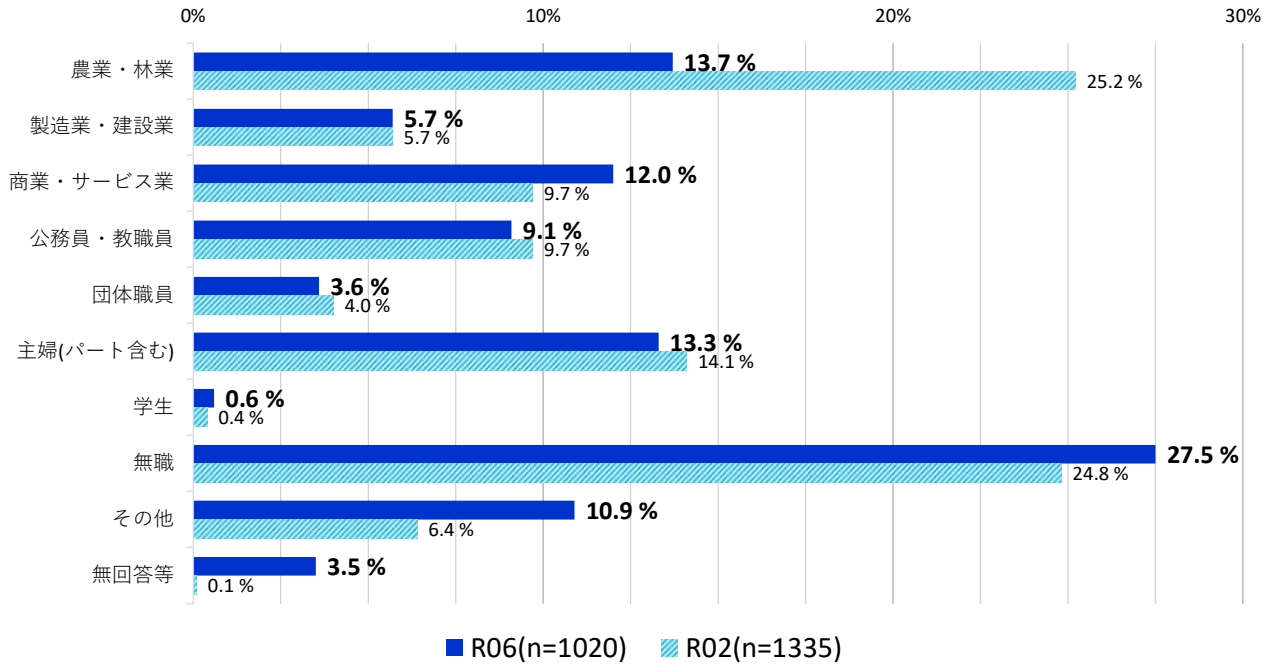
■勤務先（町内・町外）別の職業割合　※無職を除く

町内は「農業・林業」の割合が最も高く、次に「商業・サービス業」「公務員・教職員」「主婦（パート含む）」の順に高くなっている。町外は「商業・サービス業」の割合が最も高く、「製造業・建設業」「公務員・教職員」と続く。



■参考：職業別構成割合推移

第６期総合振興計画町民アンケート調査（R2.1）（以下、「前回調査」という。）時点と比較すると、「農業・林業」の割合が大幅に減少しており、一方で「無職」「商業・サービス業」の割合が増加していることが分かる。

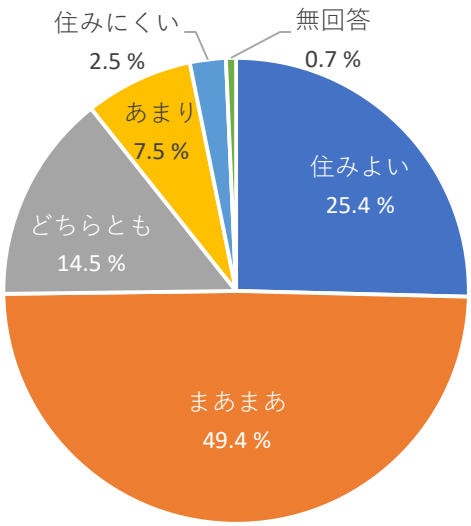


問６　長沼町は住みよいと思いますか？

【n＝1,020】

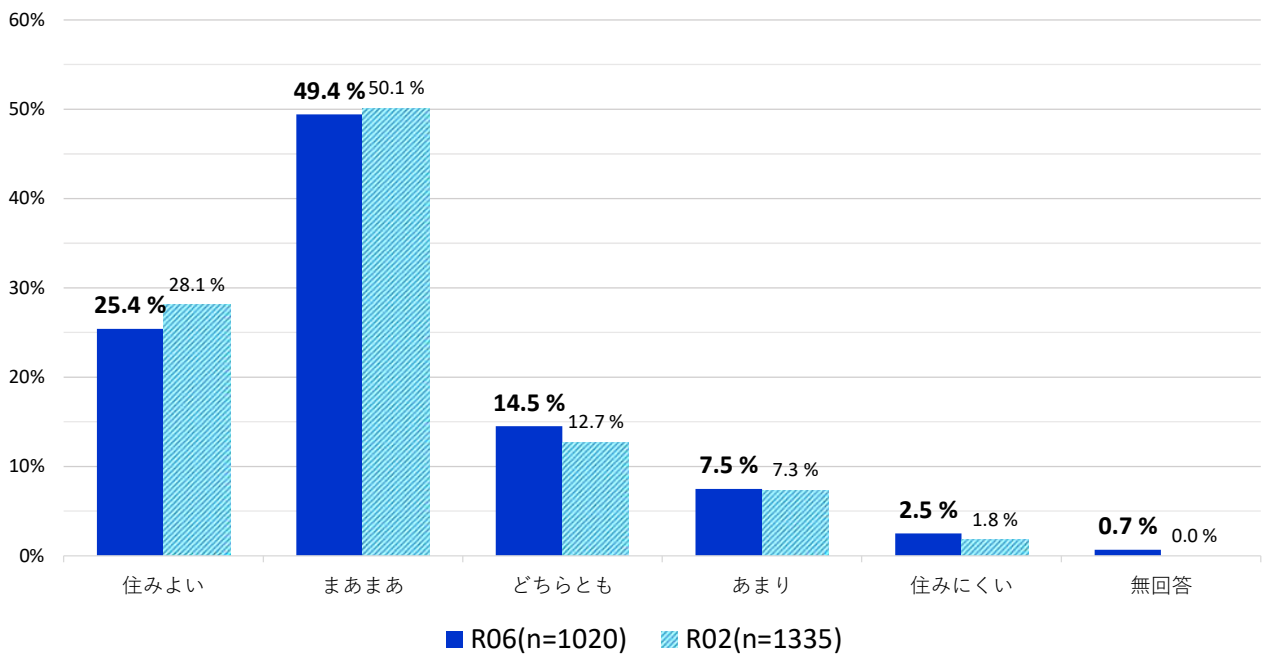
「住みよい」「まあまあ住みよい」と肯定的な回答をした方が約 75%を占める一方、10%の方が「あまり住みよいとはいえない」「住みにくい」と否定的な回答をしている。

区分	回答数	比率
住みよい	259	25.4 %
まあまあ	504	49.4 %
どちらとも	148	14.5 %
あまり	76	7.5 %
住みにくい	26	2.5 %
無回答	7	0.7 %
計	1,020	100.0 %



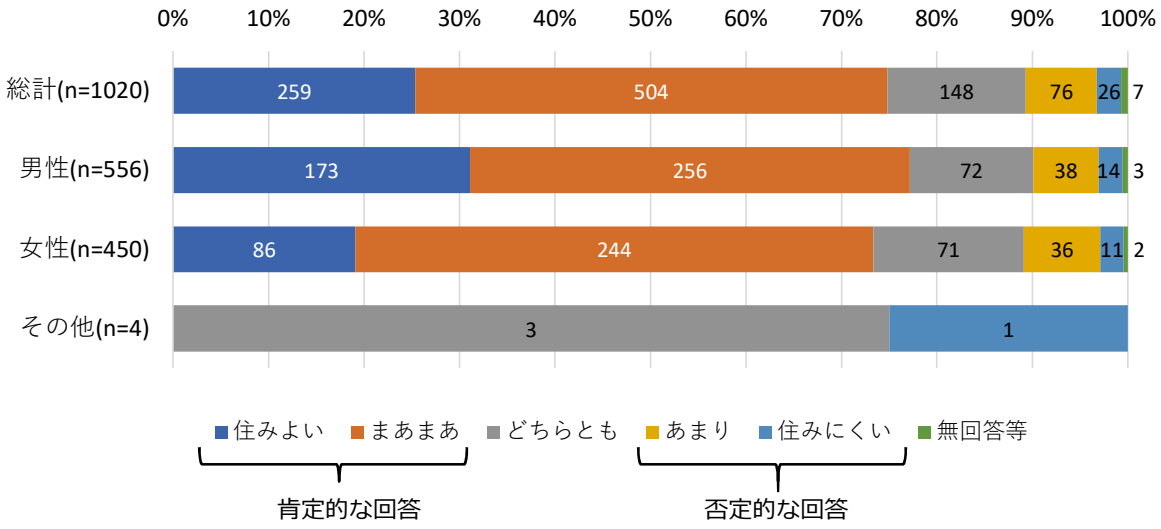
■参考：居住意向（住みよさ）推移

前回調査時点と比較すると、「住みよい」「まあまあ住みよい」の割合が減少しており、「どちらともいえない」「あまり住みよいとはいえない」「住みにくい」の割合が増加している。



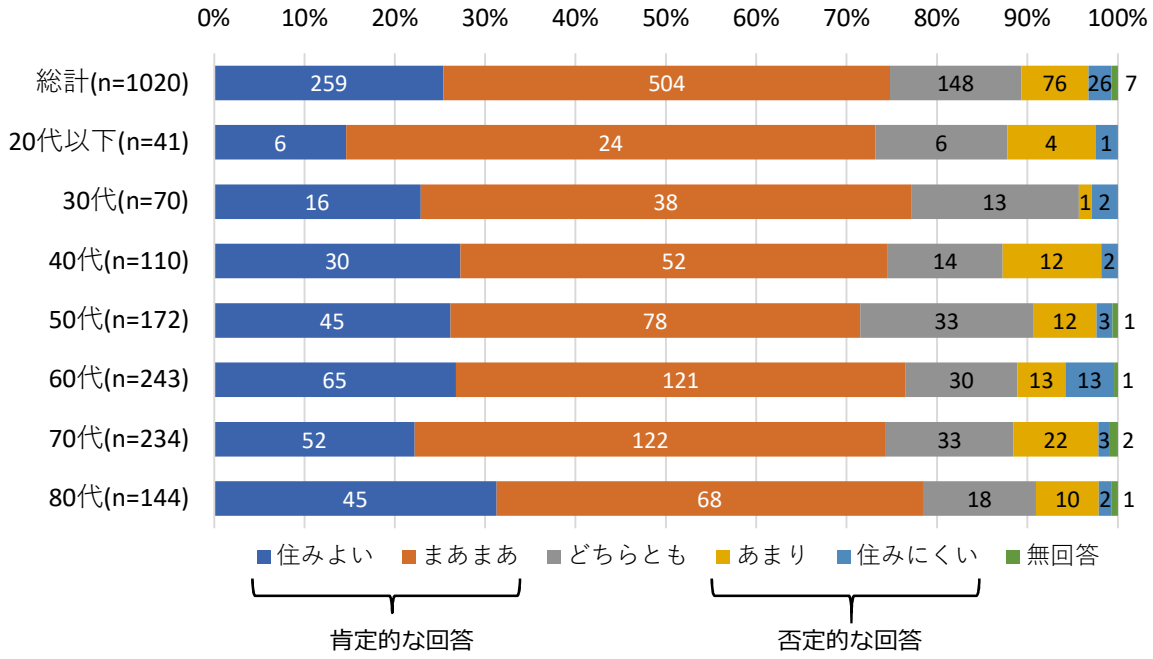
○性別ごとの住みよさ

男女別で肯定的（「住みよい」「まあまあ」）、否定的（「あまり」「住みにくい」）な回答の割合に大きな差異はみられないが、男性に比べて女性の方が「住みよい」の回答の割合が低い。



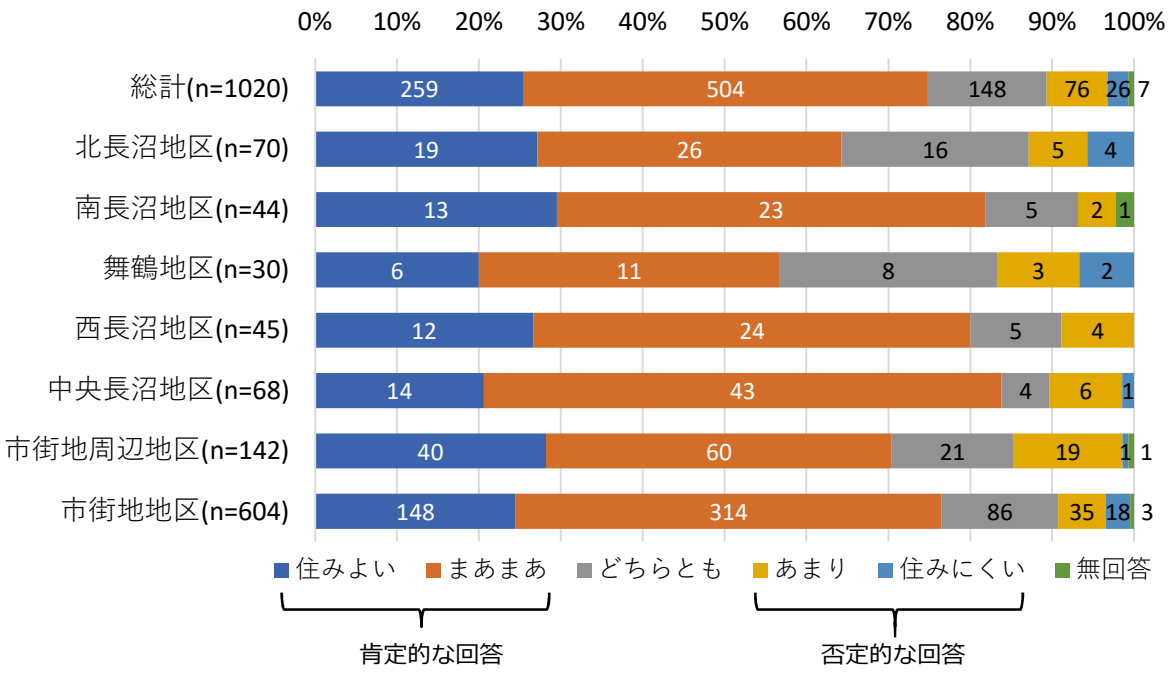
○年代別の住みよさ

年代別で肯定的、否定的な回答の割合に大きな差異はみられないが、30 代は他の年代に比べて否定的な回答の割合が低くなっている。また、「住みよい」の回答割合は、80 代以上が最も高く、20 代以下が最も低くなっている。



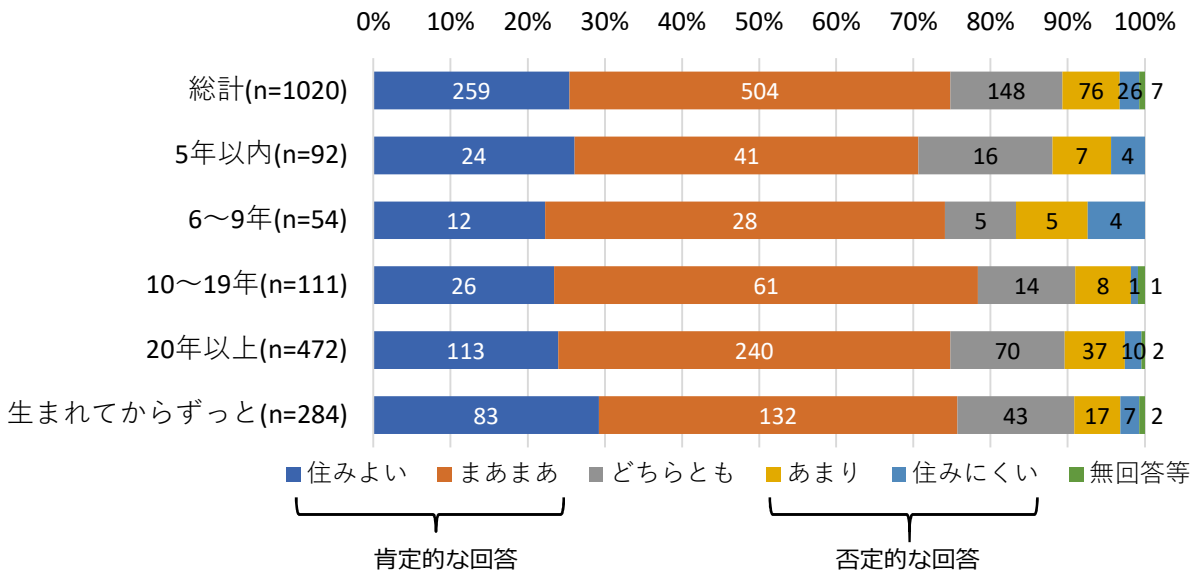
○居住地区別の住みよさ

居住地区別でみると、舞鶴地区、北長沼地区、市街地周辺地区では、他の地区に比べて肯定的な回答の割合が低く、否定的な回答の割合が高くなっていることがわかる。



○居住年数別の住みよさ

居住年数別で肯定的、否定的な回答の割合に大きな差異は見られないが、「6～9 年」で否定的な回答の割合が若干高い結果となっている。

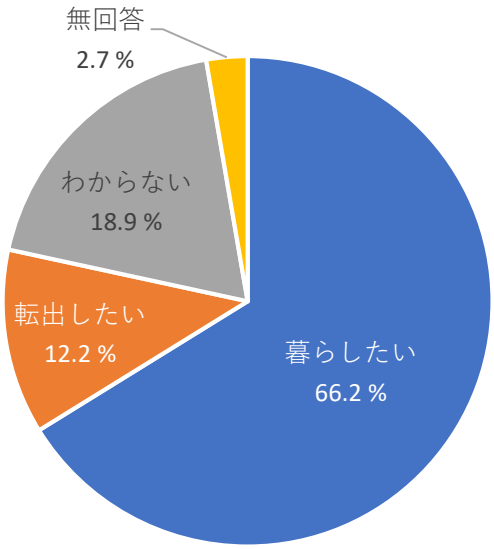


問７　あなたは今後とも長沼町で暮らしたいですか？

【n＝1,020】

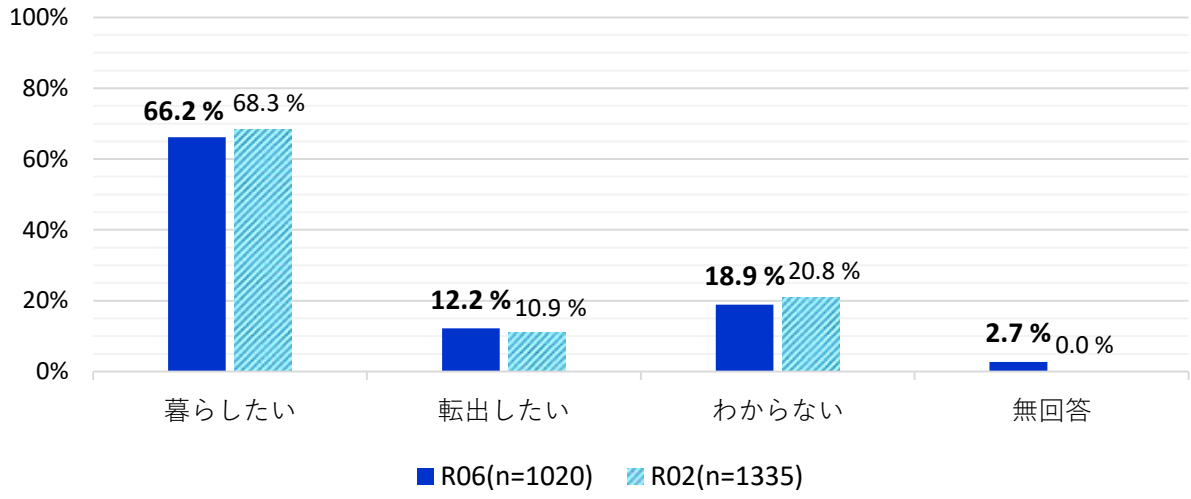
回答者の 66.2%が、「暮らしたい」と回答している。一方、「他の市町村へ転出したい」と答えた方は 12.2%であった。

区分	回答数	比率
暮らしたい	675	66.2 %
転出したい	124	12.2 %
わからない	193	18.9 %
無回答	28	2.7 %
計	1,020	100.0 %



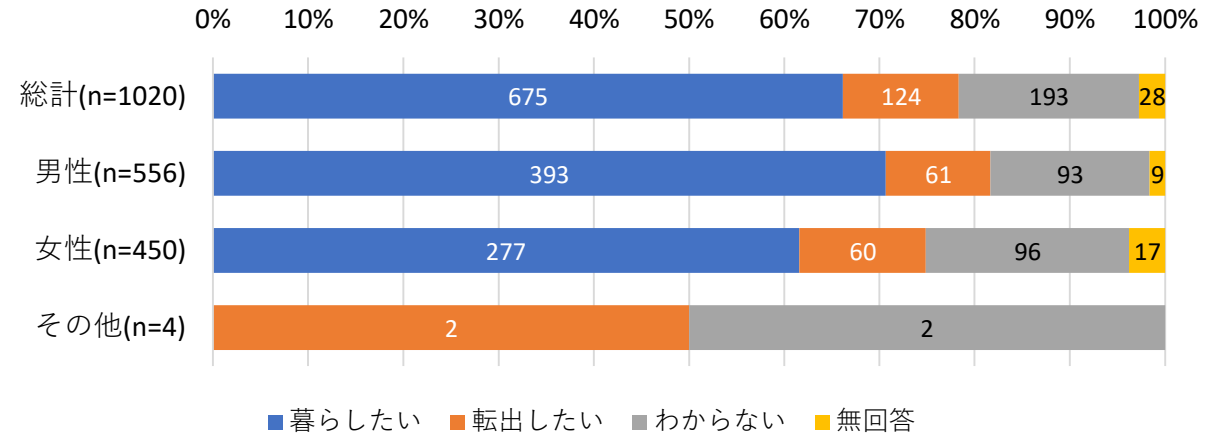
■参考：居住意向（住みよさ）推移

前回調査時点と比較すると、「暮らしたい」「わからない」の割合が減少し、「転出したい」の割合が増加している。



○性別ごとの居住意向

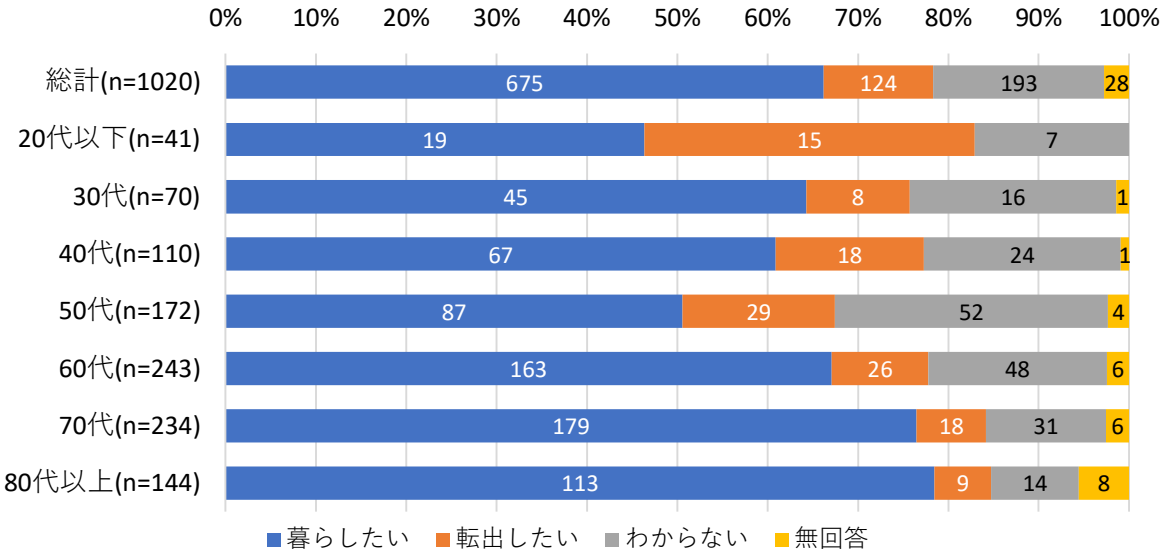
性別ごとにみると、男性に比べて女性の方が「暮らしたい」の割合が低く、「他の市町村へ転出したい」「わからない」の割合が高くなっている。



○年齢別の居住意向

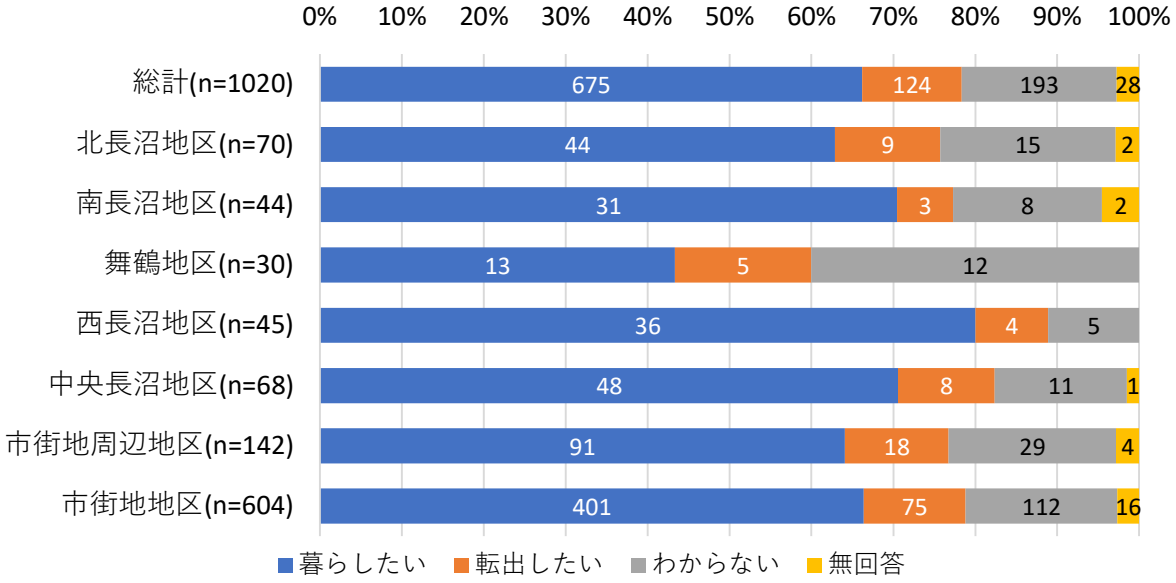
年齢別では、20 代以下で「他の市町村へ転出したい」「分からない」の割合の合計が 5 割を超えている。

傾向としては、年代が上がるにつれて「暮らしたい」の割合が増加しているが、40 代、50 代では「他の市町村へ転出したい」「分からない」の割合が高い。



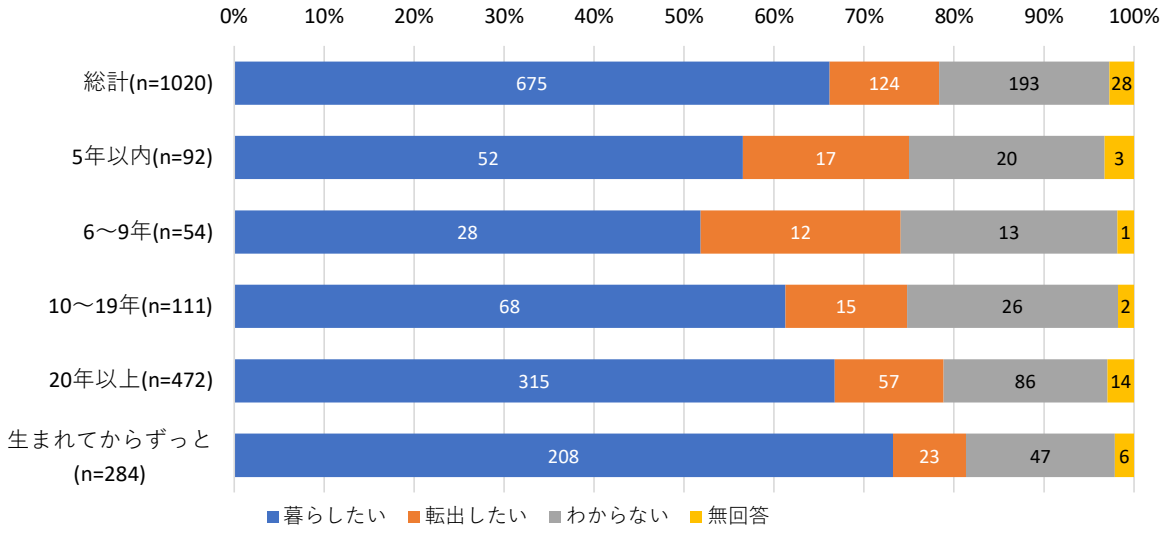
○居住地区別の居住意向

居住地区別にみると、西長沼地区、中央長沼地区、南長沼地区で「暮らしたい」の割合が比較的高いが、舞鶴地区では「暮らしたい」の割合が突出して低くなっている。



○居住年数別の居住意向

居住年数別にみると、住み始めて 10 年以内（「5 年以内」「6～9 年」）の回答者は、「暮らしたい」の回答割合が低く、「他の市町村へ転出したい」の回答割合が高いことがわかる。



問８　問７で「2.他の市町村へ転出したい」と答えた方にお聞きします。

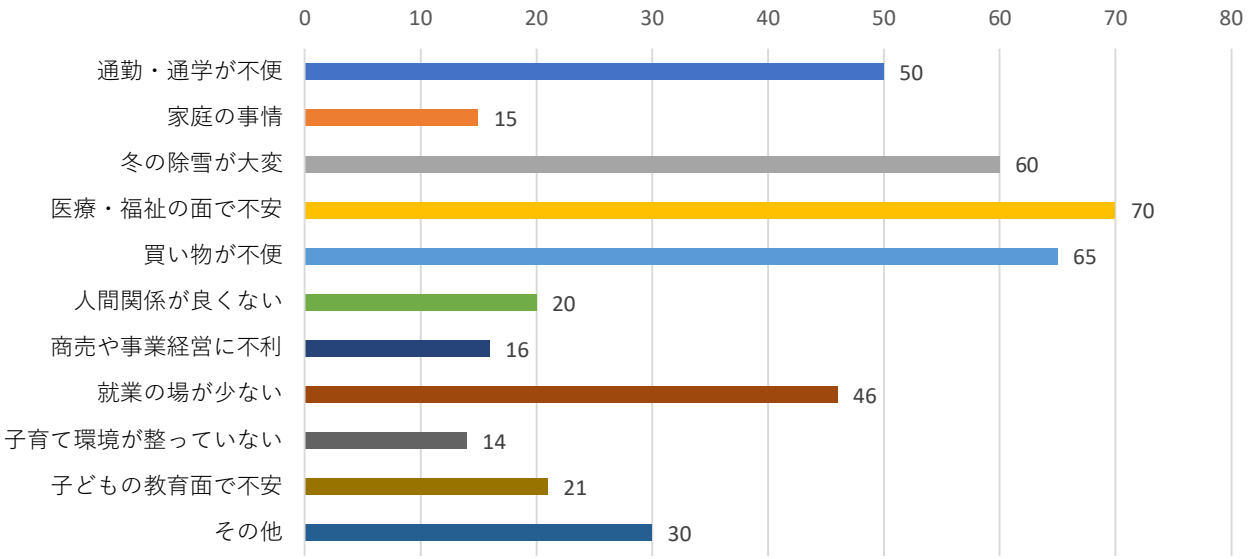
その理由は何ですか？（複数回答）　【n=146】

「医療・福祉の面で不安」が最も多く、回答者の 47.9%にあたる 70 名が選択している。以下、「買い物が不便」、「冬の除雪が大変」、「通勤・通学が不便」、「就業の場が少ない」と続く。

区　分	回答数	比率※2
通勤・通学が不便	50	34.2 %
家庭の事情	15	10.3 %
冬の除雪が大変	60	41.1 %
医療・福祉の面で不安	70	47.9 %
買い物が不便	65	44.5 %
人間関係が良くない	20	13.7 %
商売や事業経営に不利	16	11.0 %
就業の場が少ない	46	31.5 %
子育て環境が整っていない	14	9.6 %
子どもの教育面で不安	21	14.4 %
その他	30	20.5 %
計	146	※1

※1　回答が有った者の数の計（複数回答のため項目毎回答数の合計と異なる）。

※2　回答者数計（n=146）に対する割合であるため、比率計は100%とならない。

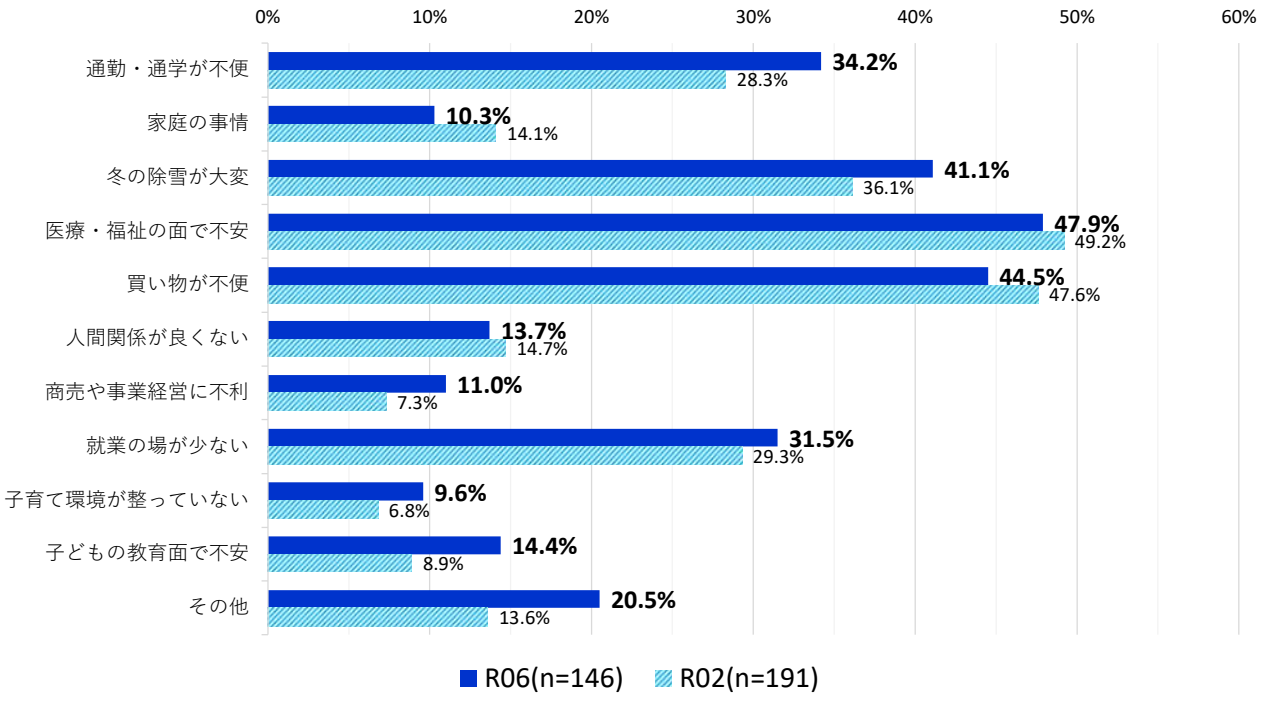


■「その他」の主な意見

・水道料金、物価が高い　・介護保険料が高すぎる
・交通がとても不便
・市街地周辺地区のゴミの収集が不便
・騒音（飛行機、戦闘機）がひどすぎる　・環境の悪化　・ねこの放し飼いが多すぎる
・高齢者の活動の場がない　・交流の場がない
・活気がなくゴーストタウンのよう
・文化に対する意識が低くて恥ずかしい
・職場の都合　・定年退職後は他市町村で仕事をする予定
・議会を含め町民の声を無視され町政が進められており、町民は蚊帳の外
・税金や町有地が有効に使われていない

■参考：転出したい理由の推移

前回調査時点と比較すると、「通勤・通学が不便」「子どもの教育面で不安」「冬の除雪が大変」の増加率が比較的大きくなっており、「家庭の事情」「買い物が不便」などは減少している。

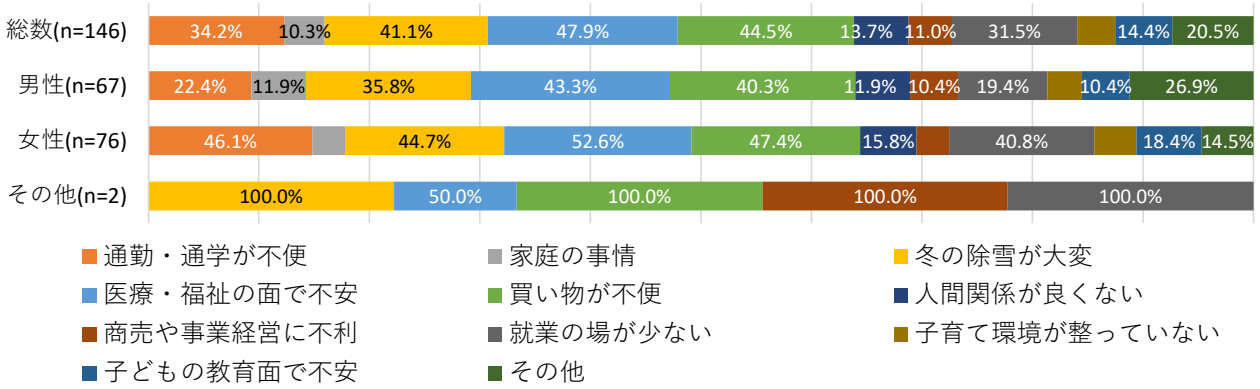


【属性別分析】

※回答者数計 n に対する回答者数の割合であるため、属性毎の比率計は 100%とならない

○性別ごとの特徴

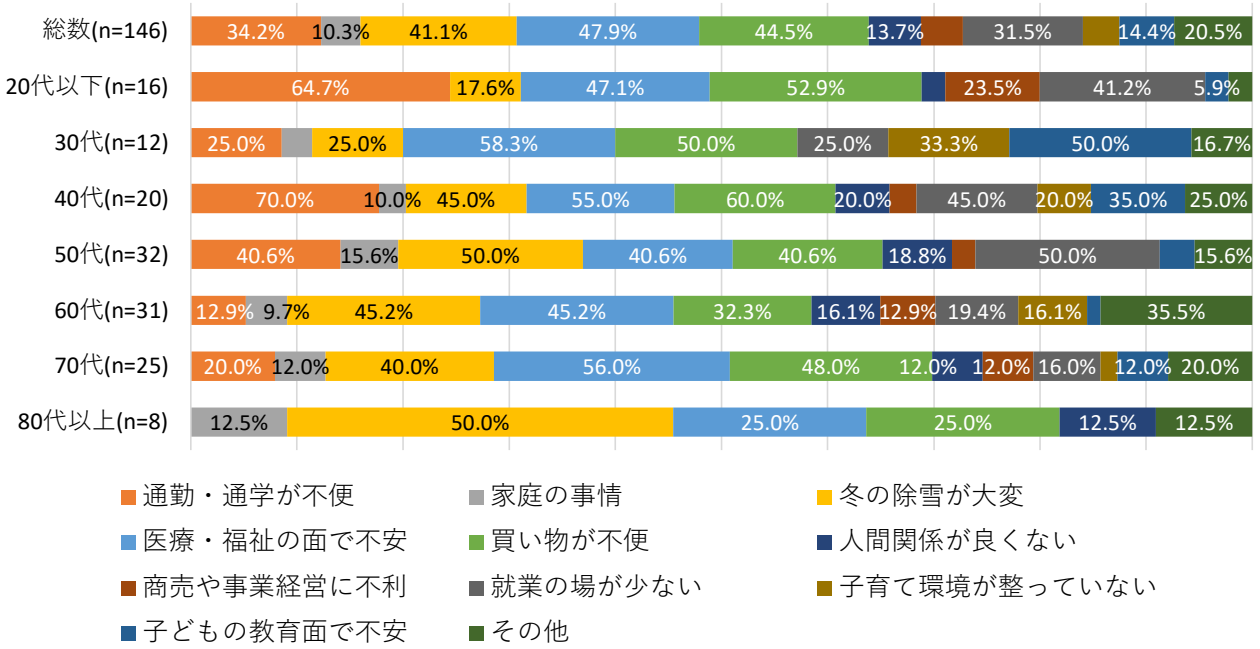
男性、女性ともに同じような傾向を示しているが、女性の方が「通勤・通学が不便」「就業の場が少ない」と感じている方の割合が高い。



○年代別の特徴

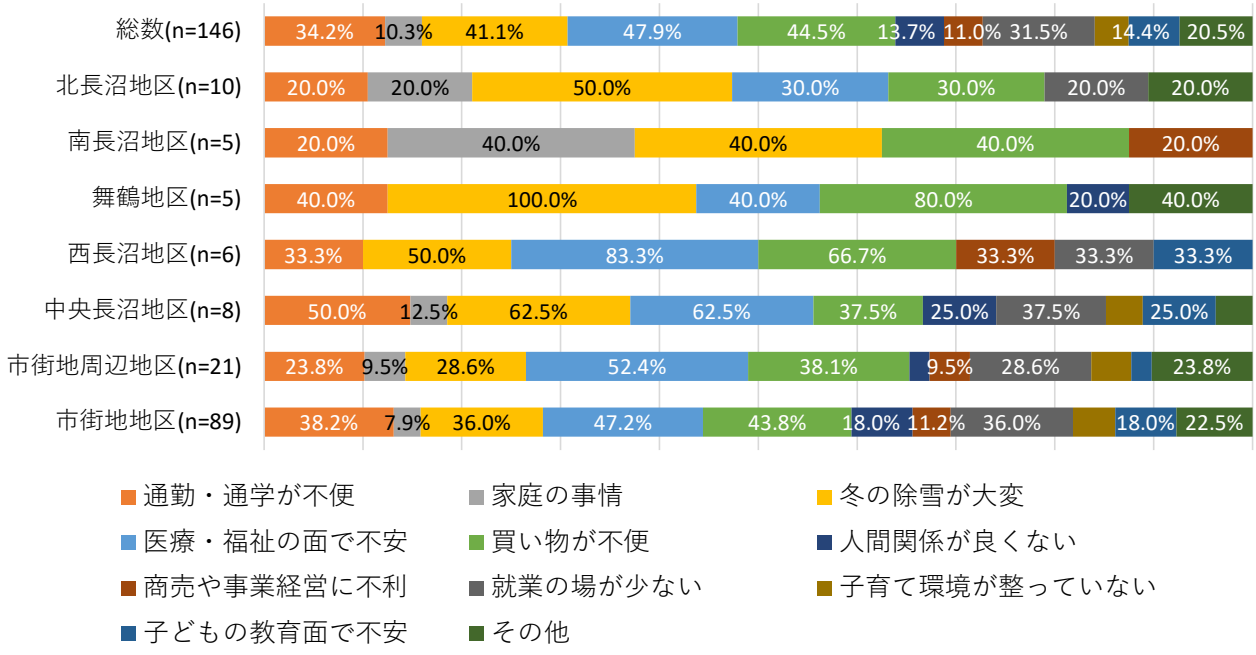
年代別の上位 3 項目をみると、全ての世代で「医療・福祉の面で不安」「買い物が不便」が入っている。また、概ね年代が上がるにつれて「冬の除雪が大変」の割合が高くなっており、50 代以下（30 代を除く）では「通勤・通学が不便」「就業の場が少ない」の割合が高い傾向を示している。

また、30 代では「子どもの教育面で不安」「子育て環境が整っていない」の回答割合が他の年代よりも高い傾向にある。



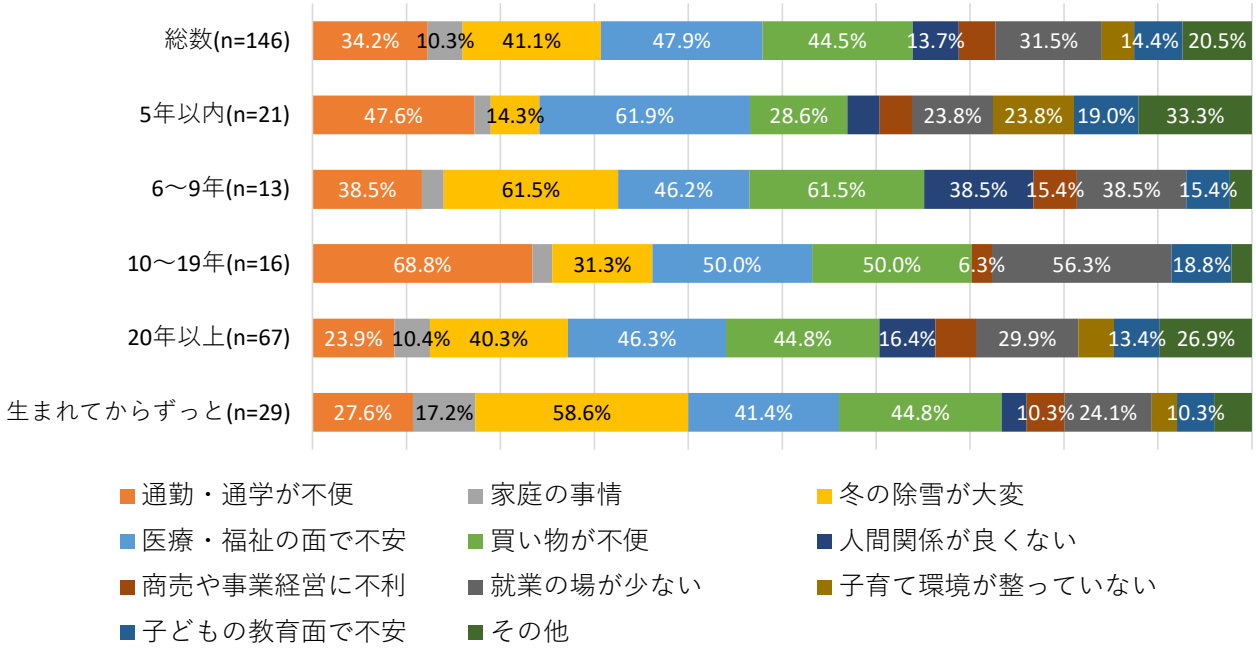
○居住地区別の特徴

どの地域でも概ね「冬の除雪が大変」「医療・福祉の面で不安」「買い物が不便」が上位３項目を占める。特に「冬の除雪が大変」「買い物が不便」は、市街地から離れた地区ほど割合が高くなる傾向が見られる。



○居住年数別の特徴

居住年数別でみると、５年以内では「冬の除雪が大変」「買い物が不便」の割合が低く、「医療・福祉の面で不安」の割合が高い。また、10～19 年では、「通勤・通学が不便」「就業の場が少ない」の割合が他の年代に比べて高くなっている。



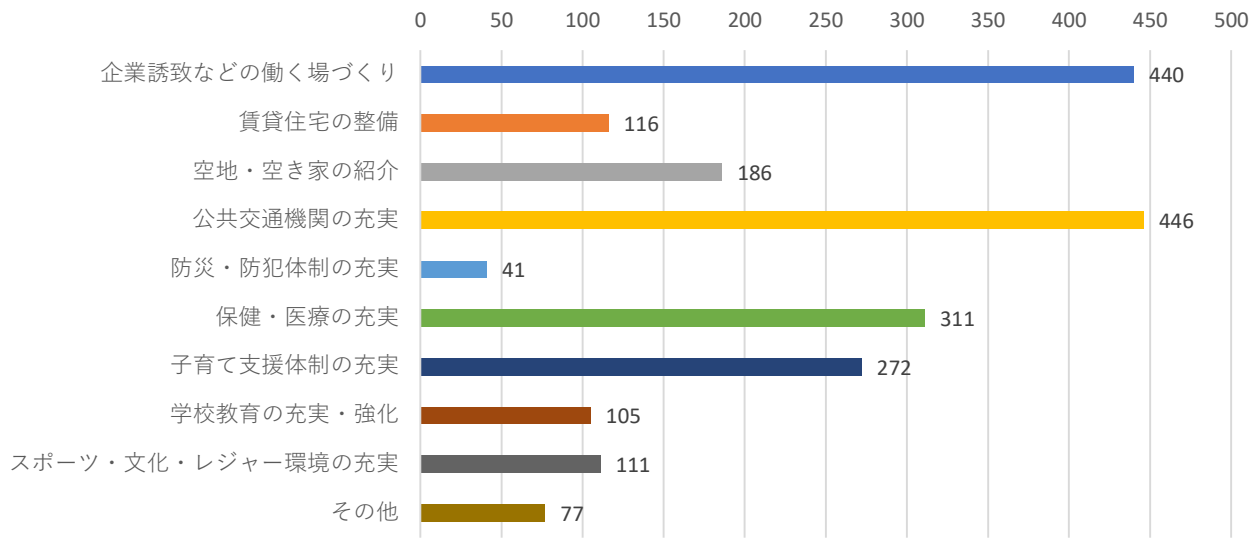
問９　あなたは、長沼町への定住を進め人口を増やすためには、町はどのようなことを重点的にすべきと思いますか？（複数回答（２つまで））　【n=993】

「公共交通機関の充実」「企業誘致などの働く場づくり」が突出して多く、いずれも回答者の約 44%が選択している。以下、「保健・医療の充実」、「子育て支援体制の充実」「空地・空き家の紹介」と続く。

区　分	回答数	比率※2
企業誘致などの働く場づくり	440	44.3 %
賃貸住宅の整備	116	11.7 %
空地・空き家の紹介	186	18.7 %
公共交通機関の充実	446	44.9 %
防災・防犯体制の充実	41	4.1 %
保健・医療の充実	311	31.3 %
子育て支援体制の充実	272	27.4 %
学校教育の充実・強化	105	10.6 %
スポーツ・文化・レジャー環境の充実	111	11.2 %
その他	77	7.8 %
計	993	※1

※1　回答が有った者の数の計（複数回答のため項目毎回答数の合計と異なる）。

※2　回答者数計（n=993）に対する割合であるため、比率計は100%とならない。

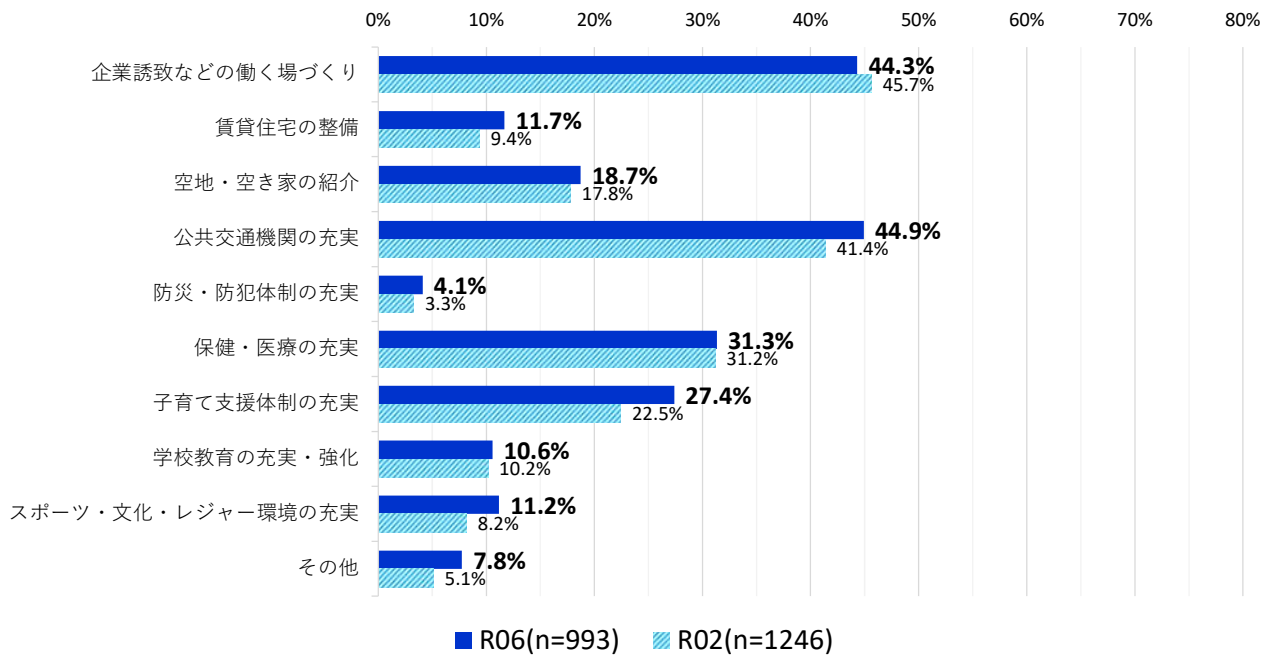


■「その他」の主な意見

・住民税、介護保険料、公共料金、家賃の相場などを下げる　・土地代を補助する
・移住支援の充実、マイホーム建築助成、空き家宅地対策
・ゴルフ場跡地への別荘地等の支援　・高齢になっても住みやすい住居環境の整備
・学校教育の充実、私立小学校の支援、学校給食の自前調理　・子育て支援施設の充実
・馬追運河の整備、観光や教育への活用　・豊かな森林、水資源環境の保全・増進
・交通インフラの整備、道央圏連絡道路の早期要望、高齢者の移動手段の充実
・除雪体制や下水道の整備、ゴミ収集の改善
・町民会館に代わる施設、生涯学習センターのような施設の整備
・中心市街地の整備、空き店舗の整理、商業施設の誘致、企業誘致
・さまざまな年代の働きやすい就業支援の拡充
・町内で完結するまちづくり（買い物、病院など）
・長沼町の魅力を発信（自然、景観、特産品、立地条件など）
・町民の声を聞き実行すること、役場の対応（人と組織）の見直し、役場のやる気
・町が外部の力に頼るのではなく、元々ある町の良い部分や特色を生かしたまちづくり

■参考：定住人口を増やすための重点項目推移

前回調査時点と比較すると、「子育て支援体制の充実」「公共交通機関の充実」「スポーツ・文化・レジャー施設の充実」の順に前回調査からの増加率が大きくなっている。

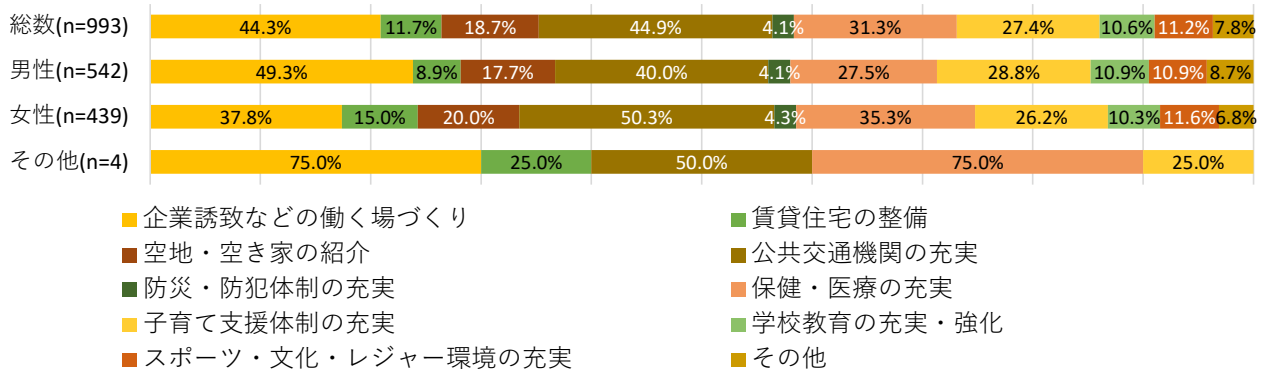


【属性別分析】

※回答者数計 n に対する回答者数の割合であるため、属性毎の比率計は 100%とならない

○性別ごとの特徴

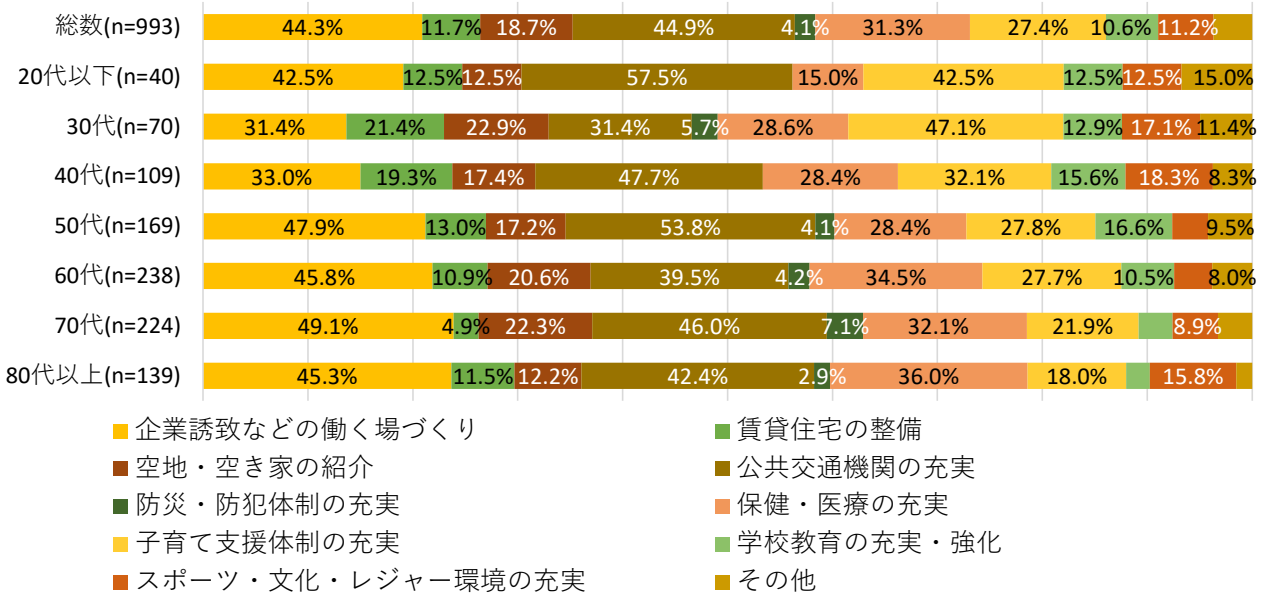
男性、女性ともに同じような傾向を示しているが、男性の１位は「企業誘致などの働く場づくり」であり、女性の１位は「公共交通機関の充実」となっている。



○年代別の特徴

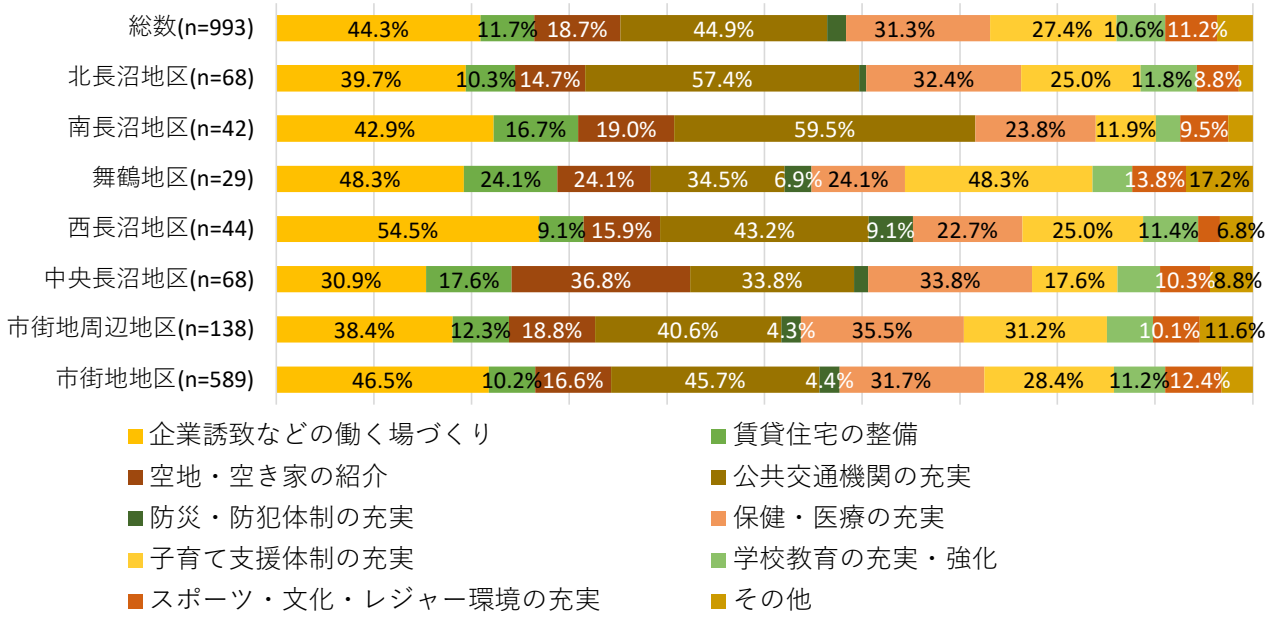
「企業誘致などの働く場づくり」「保健・医療の充実」は、概ね年代が上がるとともに割合が高くなる一方、「子育て支援体制の充実」は逆の傾向を示す。

また、30 代及び 40 代は、他の世代に比べて「賃貸住宅の整備」「スポーツ・文化・レジャー環境の充実」の割合が高いことがわかる。



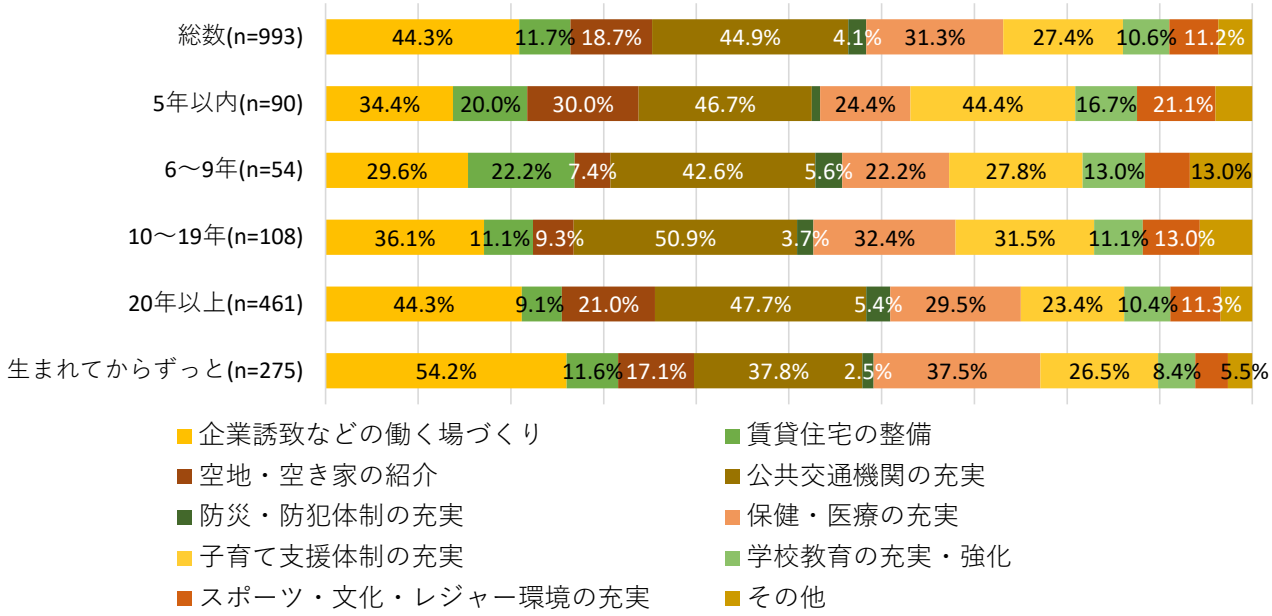
○居住地区別の特徴

北長沼地区及び南長沼地区では「公共交通機関の充実」、舞鶴地区では「子育て支援体制の充実」、西長沼地区では「企業誘致などの働く場づくり」、中央長沼地区では「空地・空き家の紹介」の割合が他地区に比べて高くなっている。



○居住年数別の特徴

「企業誘致などの働く場づくり」は居住年数が長くなるにつれて割合が高くなり、「子育て支援体制の充実」「学校教育の充実・強化」は居住年数が比較的短い層の割合が高くなっている。



問 10　それぞれの項目に対する「満足度」と、これからのまちづくりの取組を進めていく上での「重要度」について、それぞれ１つずつ選んで下さい。

満足度（回答数）による比較

「満足」及び「やや満足」の回答数の上位３項目及び下位３項目は以下のとおりとなる。

１位	衛生的な上下水道の整備	61.3%
２位	公園・緑地の整備	49.3%
３位	ごみの減量化とリサイクルの推進	45.0%
29 位	商店街の振興	12.7%
30 位	地元中小企業の支援	11.5%
31 位	企業誘致など雇用の確保	10.6%

また、「不満」及び「やや不満」の回答数の上位３項目は以下のとおりとなる。

１位	バス交通網の整備	54.9%
２位	生活道路の維持・補修	48.7%
３位	地域医療の充実	44.6%

満足度（指数）による比較

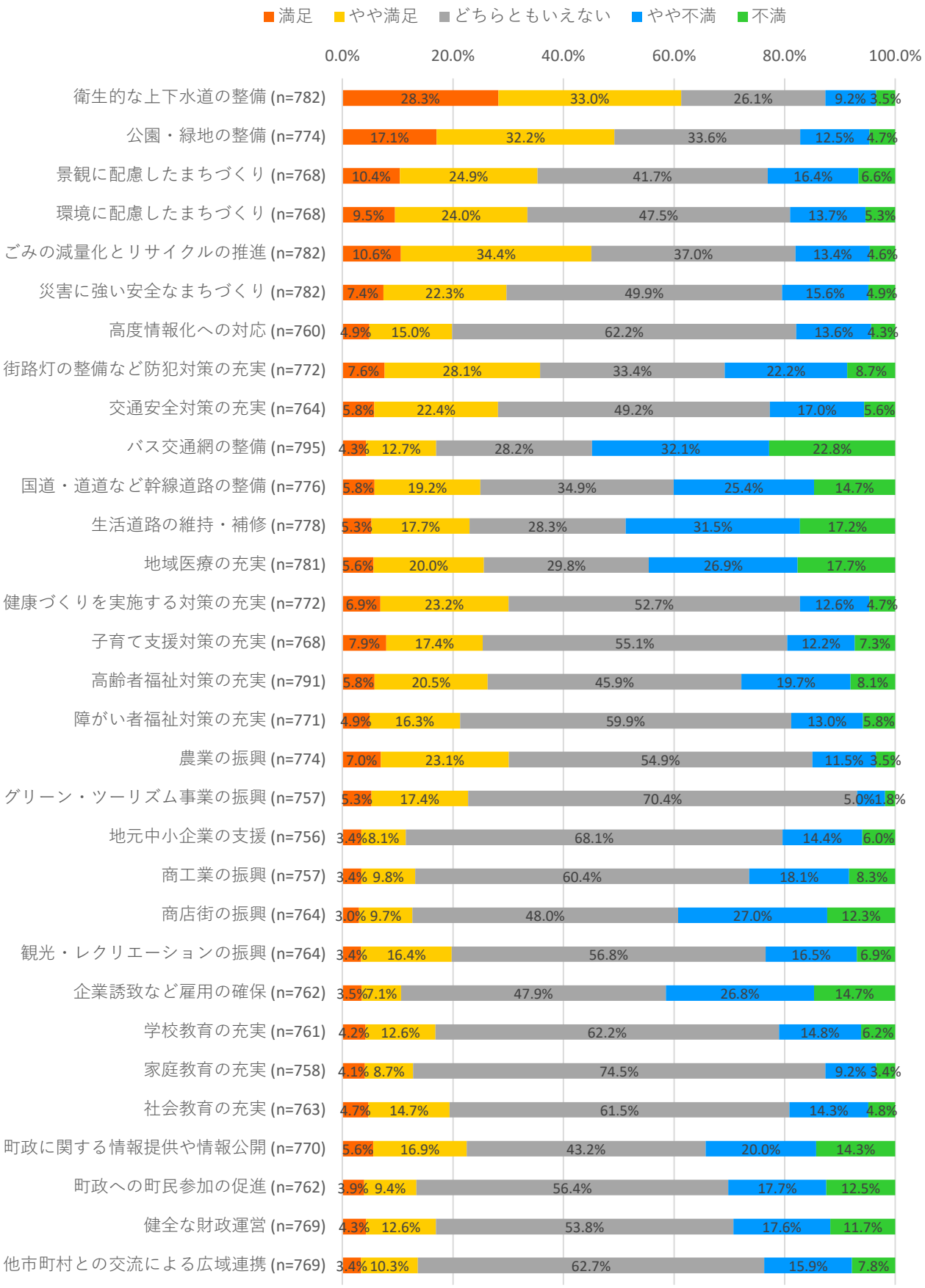
満足度指数の上位３項目、下位３項目は以下のとおりとなる。

１位	衛生的な上下水道の整備	0.73
２位	公園・緑地の整備	0.44
３位	ごみの減量化とリサイクルの推進	0.33
29 位	生活道路の維持・補修	-0.38
30 位	企業誘致など雇用の確保	-0.42
31 位	バス交通網の整備	-0.56

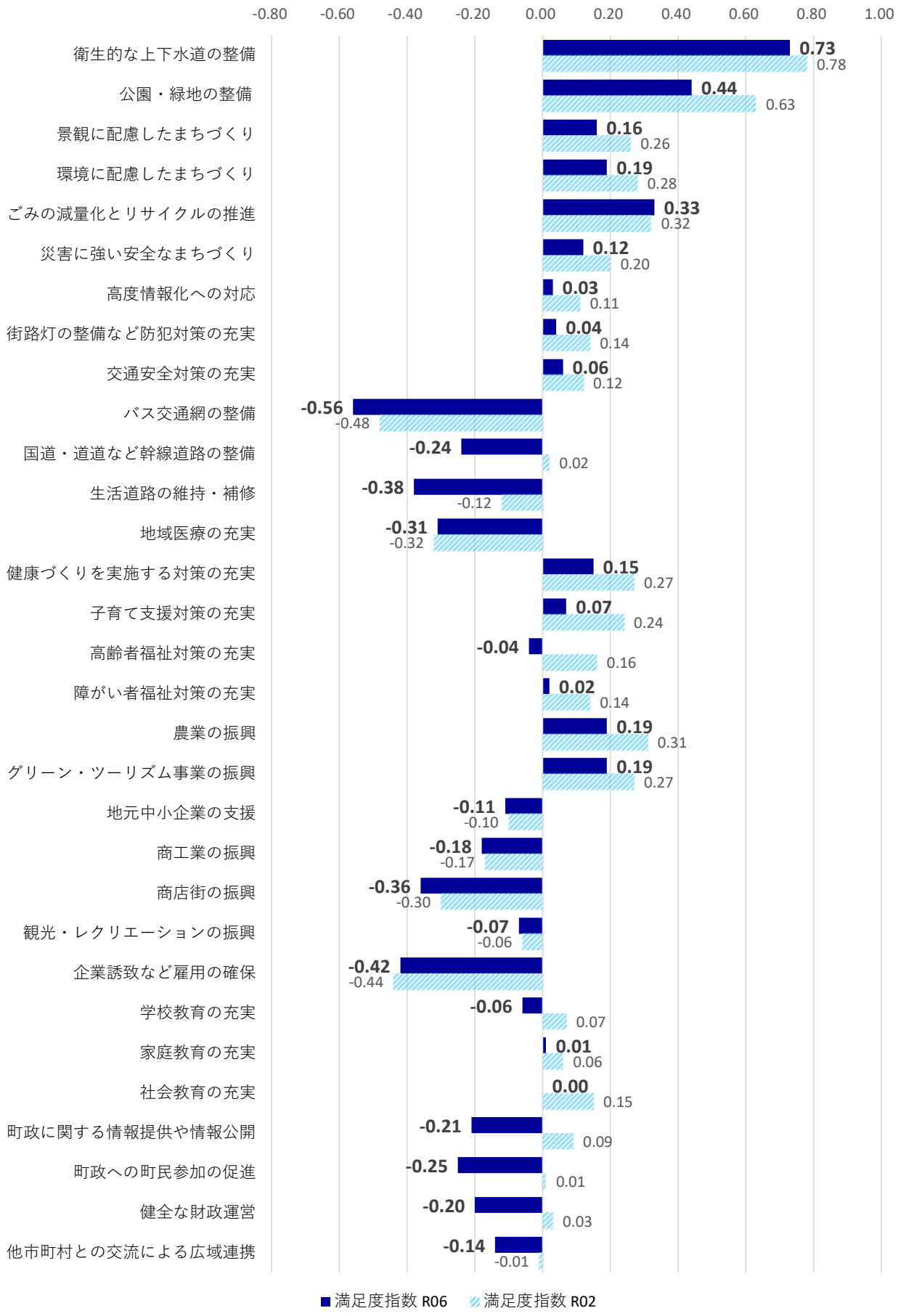
以上のことから、上下水道、公園整備、ごみ等の生活に関する項目への満足度は比較的高いが、交通網や生活道路の整備、地域医療、第２次・第３次産業（商工業、雇用等）に対して満足度が低い傾向がわかった。

なお、前回調査時点から満足度指数の減少率が最も大きい項目は「町政に関する情報提供や情報公開」であり、行政運営に関する項目はいずれも大きな減少率となった。

■満足度（回答数）


満足
やや満足
どちらともいえない
やや不満
不満
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
衛生的な上下水道の整備 (n=782) 28.3% 33.0% 26.1% 9.2% 3.5%
公園・緑地の整備 (n=774) 17.1% 32.2% 33.6% 12.5% 4.7%
景観に配慮したまちづくり (n=768) 10.4% 24.9% 41.7% 16.4% 6.6%
環境に配慮したまちづくり (n=768) 9.5% 24.0% 47.5% 13.7% 5.3%
ごみの減量化とリサイクルの推進 (n=782) 10.6% 34.4% 37.0% 13.4% 4.6%
災害に強い安全なまちづくり (n=782) 7.4% 22.3% 49.9% 15.6% 4.9%
高度情報化への対応 (n=760) 4.9% 15.0% 62.2% 13.6% 4.3%
街路灯の整備など防犯対策の充実 (n=772) 7.6% 28.1% 33.4% 22.2% 8.7%
交通安全対策の充実 (n=764) 5.8% 22.4% 49.2% 17.0% 5.6%
バス交通網の整備 (n=795) 4.3% 12.7% 28.2% 32.1% 22.8%
国道・道道など幹線道路の整備 (n=776) 5.8% 19.2% 34.9% 25.4% 14.7%
生活道路の維持・補修 (n=778) 5.3% 17.7% 28.3% 31.5% 17.2%
地域医療の充実 (n=781) 5.6% 20.0% 29.8% 26.9% 17.7%
健康づくりを実施する対策の充実 (n=772) 6.9% 23.2% 52.7% 12.6% 4.7%
子育て支援対策の充実 (n=768) 7.9% 17.4% 55.1% 12.2% 7.3%
高齢者福祉対策の充実 (n=791) 5.8% 20.5% 45.9% 19.7% 8.1%
障がい者福祉対策の充実 (n=771) 4.9% 16.3% 59.9% 13.0% 5.8%
農業の振興 (n=774) 7.0% 23.1% 54.9% 11.5% 3.5%
グリーン・ツーリズム事業の振興 (n=757) 5.3% 17.4% 70.4% 5.0% 1.8%
地元中小企業の支援 (n=756) 3.4% 8.1% 68.1% 14.4% 6.0%
商工業の振興 (n=757) 3.4% 9.8% 60.4% 18.1% 8.3%
商店街の振興 (n=764) 3.0% 9.7% 48.0% 27.0% 12.3%
観光・レクリエーションの振興 (n=764) 3.4% 16.4% 56.8% 16.5% 6.9%
企業誘致など雇用の確保 (n=762) 3.5% 7.1% 47.9% 26.8% 14.7%
学校教育の充実 (n=761) 4.2% 12.6% 62.2% 14.8% 6.2%
家庭教育の充実 (n=758) 4.1% 8.7% 74.5% 9.2% 3.4%
社会教育の充実 (n=763) 4.7% 14.7% 61.5% 14.3% 4.8%
町政に関する情報提供や情報公開 (n=770) 5.6% 16.9% 43.2% 20.0% 14.3%
町政への町民参加の促進 (n=762) 3.9% 9.4% 56.4% 17.7% 12.5%
健全な財政運営 (n=769) 4.3% 12.6% 53.8% 17.6% 11.7%
他市町村との交流による広域連携 (n=769) 3.4% 10.3% 62.7% 15.9% 7.8%

■満足度（満足度指数）


-0.80
-0.60
-0.40
-0.20
0.00
0.20
0.40
0.60
0.80
1.00
衛生的な上下水道の整備 0.73 0.78
公園・緑地の整備 0.44 0.63
景観に配慮したまちづくり 0.16 0.26
環境に配慮したまちづくり 0.19 0.28
ごみの減量化とリサイクルの推進 0.33 0.32
災害に強い安全なまちづくり 0.12 0.20
高度情報化への対応 0.03 0.11
街路灯の整備など防犯対策の充実 0.04 0.14
交通安全対策の充実 0.06 0.12
バス交通網の整備 -0.56 -0.48
国道・道道など幹線道路の整備 -0.24 0.02
生活道路の維持・補修 -0.38 -0.12
地域医療の充実 -0.31 -0.32
健康づくりを実施する対策の充実 0.15 0.27
子育て支援対策の充実 0.07 0.24
高齢者福祉対策の充実 -0.04 0.16
障がい者福祉対策の充実 0.02 0.14
農業の振興 0.19 0.31
グリーン・ツーリズム事業の振興 0.19 0.27
地元中小企業の支援 -0.11 -0.10
商工業の振興 -0.18 -0.17
商店街の振興 -0.36 -0.30
観光・レクリエーションの振興 -0.07 -0.06
企業誘致など雇用の確保 -0.42 -0.44
学校教育の充実 -0.06 0.07
家庭教育の充実 0.01 0.06
社会教育の充実 0.00 0.15
町政に関する情報提供や情報公開 -0.21 0.09
町政への町民参加の促進 -0.25 0.01
健全な財政運営 -0.20 0.03
他市町村との交流による広域連携 -0.14 -0.01
満足度指数 R06
満足度指数 R02

■満足度指数、重要度指数　算定方法

満足度と重要度の分析を行うため、各選択肢の比率に一定の数値を乗じて求めた「満足度指数」及び「重要度指数」を設定し、分析を行った。

算出方法は以下のとおり。

満足度	満足	やや満足	どちらとも	やや不満	不満
回答数	A	B	C	D	E

「満足度指数」

＝｛（A×２）＋（B×１）＋（D×（－１））＋（E×（－２））｝

／（A＋B＋C＋D＋E）

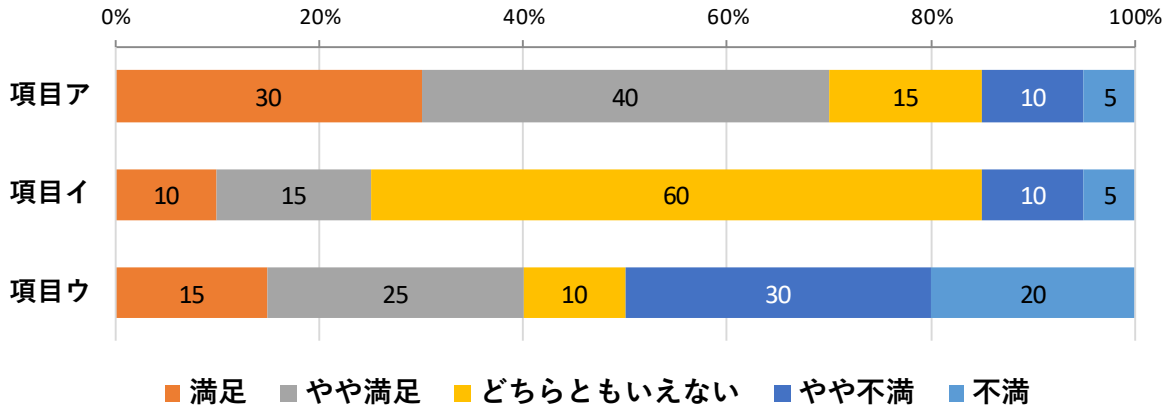
重要度	重要	やや重要	どちらとも	あまり	重要でない
回答数	F	G	H	J	K

「重要度指数」

＝｛（F×２）＋（G×１）＋（J×（－１））＋（K×（－２））｝

／（F＋G＋H＋J＋K）

○算定例（満足度で、いずれもｎ＝１００とする）



項目アの満足度指数

＝｛（３０×２）＋（４０×１）＋（１０×（－１））＋（５×（－２））｝

／（３０＋４０＋１５＋１０＋５）　＝０．８０

同様に計算すると、項目イの満足度指数は０．１５、項目ウでは－０．１５となり、数値の大きいほうが満足していることになる。

項目イと項目ウで比較すると、項目イのほうが「満足」「やや満足」という回答数が少ないものの、「やや不満」「不満」の回答数が項目イのほうがそれ以上に少ない（逆に言えば、項目ウに対する不満が多い）ことから、満足の度合いとしては項目イのほうが高いことになる。

重要度についても同様。

重要度（回答数）による比較

「重要」及び「やや重要」の回答数の上位３項目及び下位３項目は以下のとおりとなる。

１位	地域医療の充実	82.1%
２位	生活道路の維持・補修	79.1%
３位	バス交通網の整備	78.3%
29 位	家庭教育の充実	45.4%
30 位	社会教育の充実	45.1%
31 位	グリーン・ツーリズム事業の振興	27.8%

また、「重要でない」及び「あまり重要でない」の回答数の上位３項目は以下のとおりとなる。

１位	公園・緑地の整備	13.4%
２位	グリーン・ツーリズム事業の振興	13.0%
３位	景観に配慮したまちづくり	11.6%

重要度（指数）による比較

重要度指数の上位３項目、下位３項目は以下のとおりとなる。

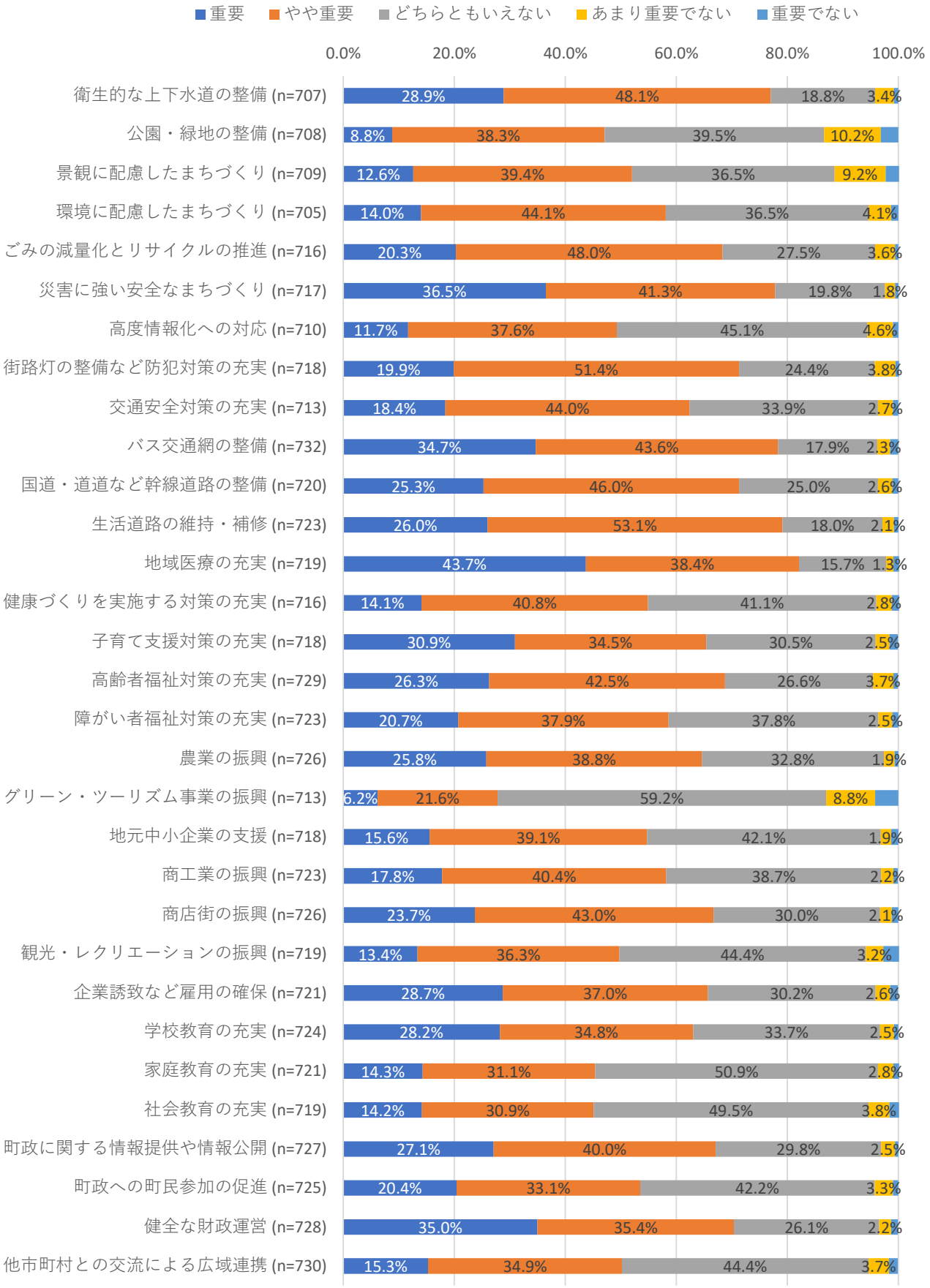
１位	地域医療の充実	1.23
２位	災害に強い安全なまちづくり	1.11
３位	バス交通網の整備	1.08
29 位	景観に配慮したまちづくり	0.50
30 位	公園・緑地の整備	0.39
31 位	グリーン・ツーリズム事業の振興	0.17

全項目のうち、「地域医療の充実」は唯一「重要」の回答数が「やや重要」を上回っており、より強く重要性を感じている回答者が多いと言える。

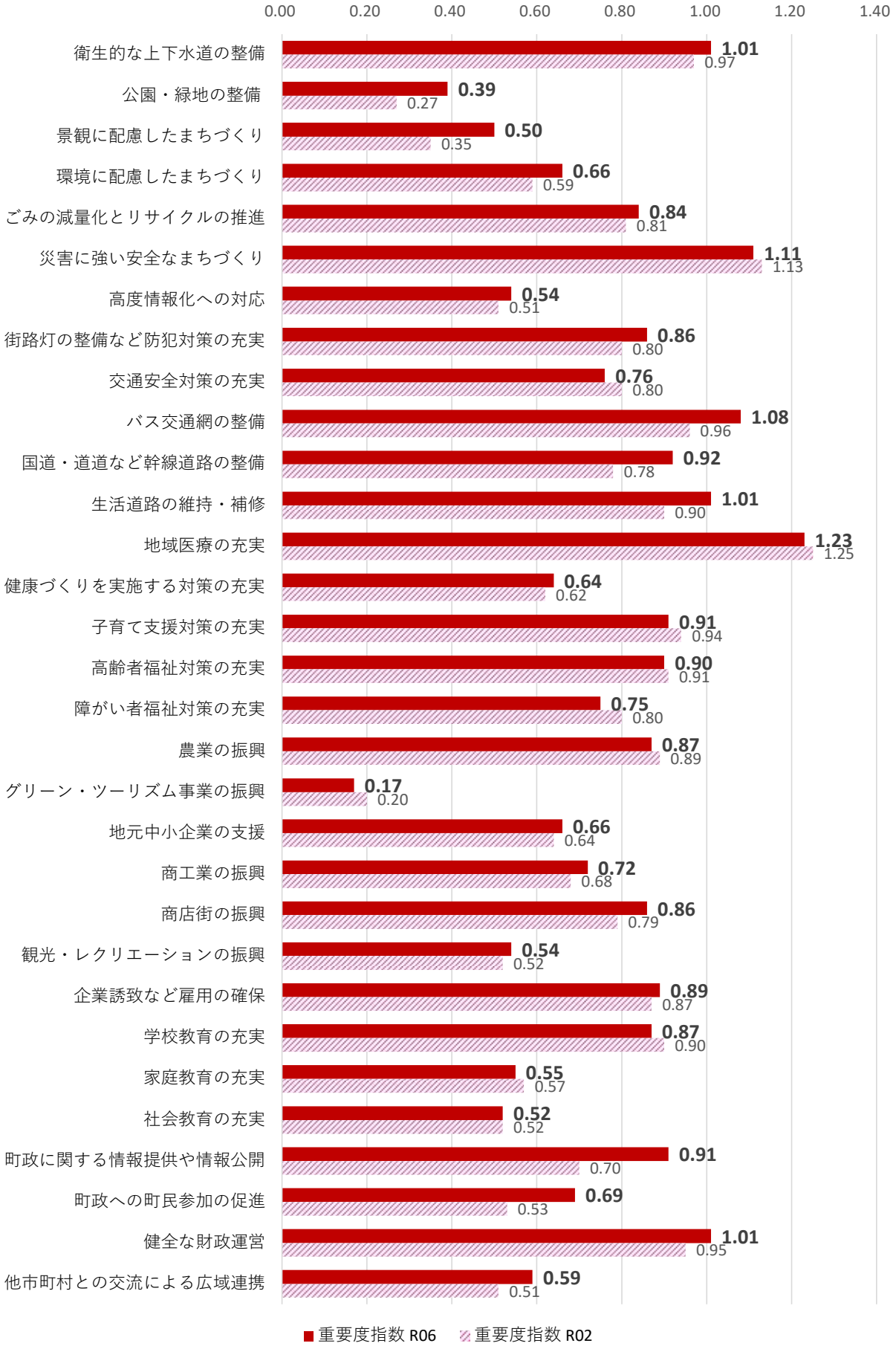
なお、過半数の回答者が「重要」もしくは「やや重要」と回答したのは、31 項目中 25 項目であった。

なお、前回調査時点と比較すると、行政運営や景観配慮、道路整備に関する項目において、重要度指数の上昇率が大きくなっている。

■重要度（回答数）


重要
やや重要
どちらともいえない
あまり重要でない
重要でない
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
衛生的な上下水道の整備 (n=707) 28.9% 48.1% 18.8% 3.4%
公園・緑地の整備 (n=708) 8.8% 38.3% 39.5% 10.2%
景観に配慮したまちづくり (n=709) 12.6% 39.4% 36.5% 9.2%
環境に配慮したまちづくり (n=705) 14.0% 44.1% 36.5% 4.1%
ごみの減量化とリサイクルの推進 (n=716) 20.3% 48.0% 27.5% 3.6%
災害に強い安全なまちづくり (n=717) 36.5% 41.3% 19.8% 1.8%
高度情報化への対応 (n=710) 11.7% 37.6% 45.1% 4.6%
街路灯の整備など防犯対策の充実 (n=718) 19.9% 51.4% 24.4% 3.8%
交通安全対策の充実 (n=713) 18.4% 44.0% 33.9% 2.7%
バス交通網の整備 (n=732) 34.7% 43.6% 17.9% 2.3%
国道・道道など幹線道路の整備 (n=720) 25.3% 46.0% 25.0% 2.6%
生活道路の維持・補修 (n=723) 26.0% 53.1% 18.0% 2.1%
地域医療の充実 (n=719) 43.7% 38.4% 15.7% 1.3%
健康づくりを実施する対策の充実 (n=716) 14.1% 40.8% 41.1% 2.8%
子育て支援対策の充実 (n=718) 30.9% 34.5% 30.5% 2.5%
高齢者福祉対策の充実 (n=729) 26.3% 42.5% 26.6% 3.7%
障がい者福祉対策の充実 (n=723) 20.7% 37.9% 37.8% 2.5%
農業の振興 (n=726) 25.8% 38.8% 32.8% 1.9%
グリーン・ツーリズム事業の振興 (n=713) 6.2% 21.6% 59.2% 8.8%
地元中小企業の支援 (n=718) 15.6% 39.1% 42.1% 1.9%
商工業の振興 (n=723) 17.8% 40.4% 38.7% 2.2%
商店街の振興 (n=726) 23.7% 43.0% 30.0% 2.1%
観光・レクリエーションの振興 (n=719) 13.4% 36.3% 44.4% 3.2%
企業誘致など雇用の確保 (n=721) 28.7% 37.0% 30.2% 2.6%
学校教育の充実 (n=724) 28.2% 34.8% 33.7% 2.5%
家庭教育の充実 (n=721) 14.3% 31.1% 50.9% 2.8%
社会教育の充実 (n=719) 14.2% 30.9% 49.5% 3.8%
町政に関する情報提供や情報公開 (n=727) 27.1% 40.0% 29.8% 2.5%
町政への町民参加の促進 (n=725) 20.4% 33.1% 42.2% 3.3%
健全な財政運営 (n=728) 35.0% 35.4% 26.1% 2.2%
他市町村との交流による広域連携 (n=730) 15.3% 34.9% 44.4% 3.7%

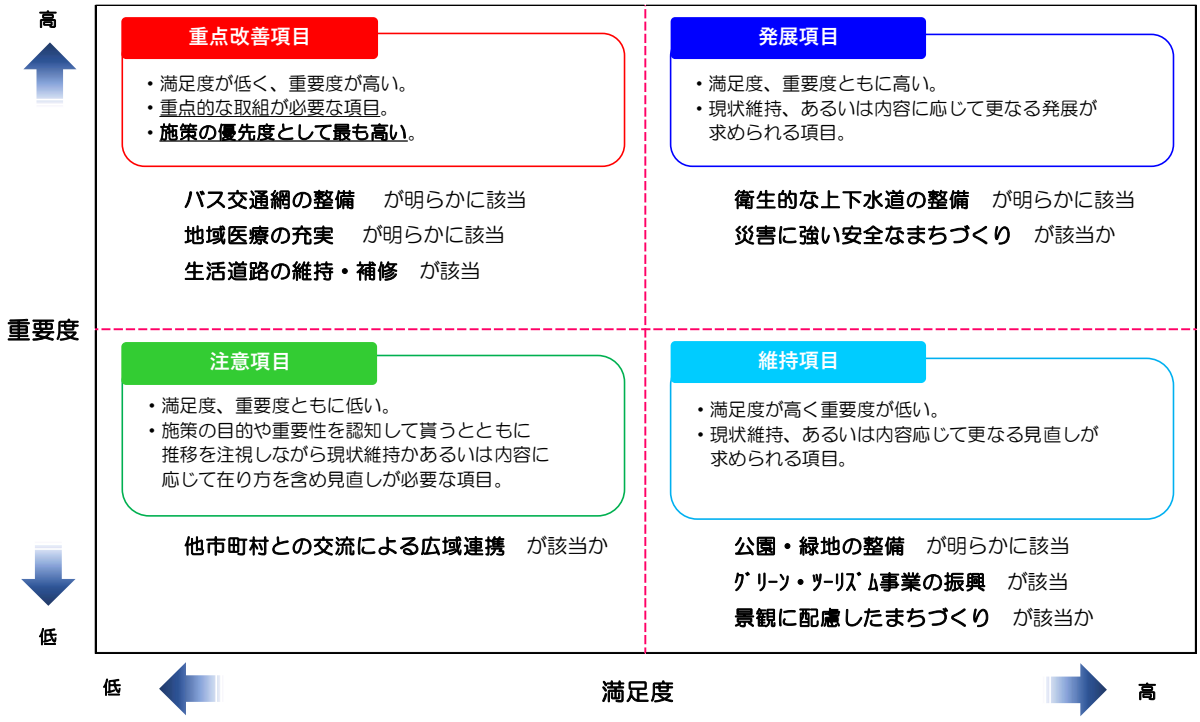
■重要度（重要度指数）

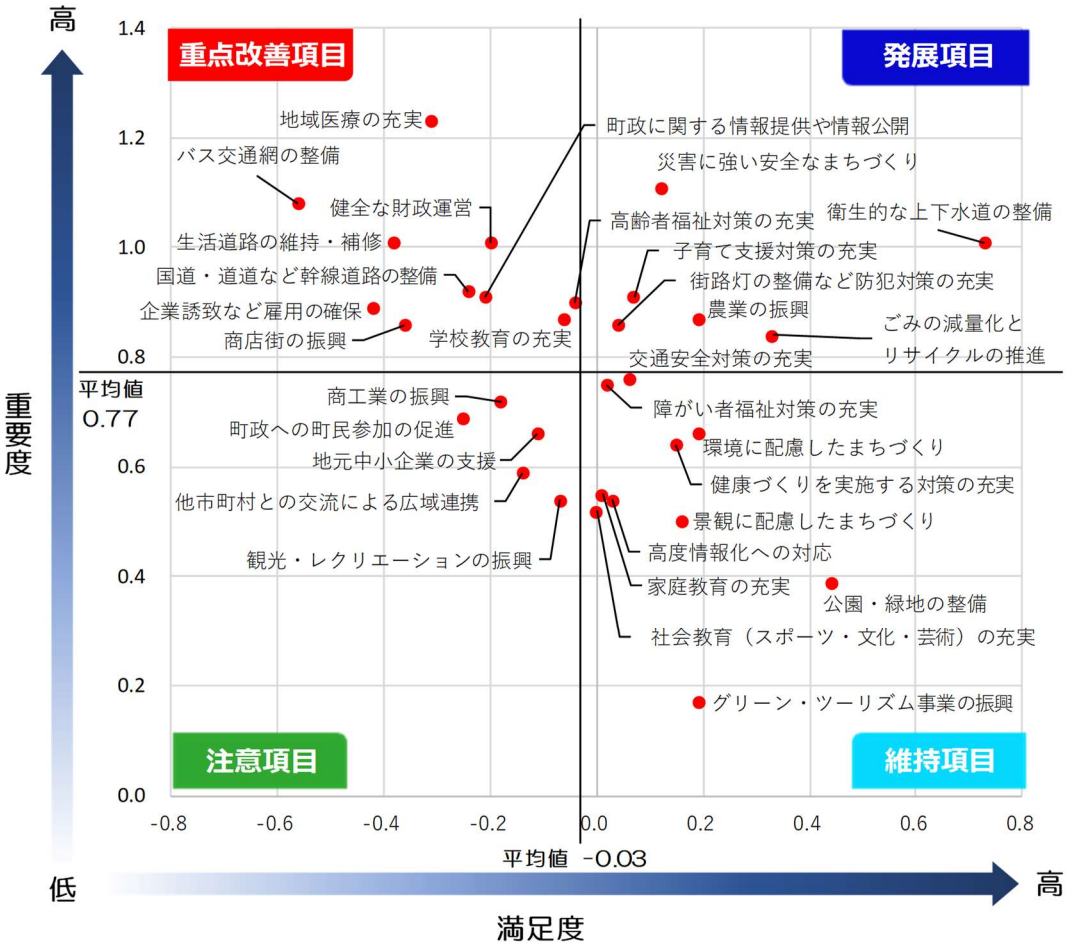

0.00
0.20
0.40
0.60
0.80
1.00
1.20
1.40
衛生的な上下水道の整備 1.01 0.97
公園・緑地の整備 0.39 0.27
景観に配慮したまちづくり 0.50 0.35
環境に配慮したまちづくり 0.66 0.59
ごみの減量化とリサイクルの推進 0.84 0.81
災害に強い安全なまちづくり 1.11 1.13
高度情報化への対応 0.54 0.51
街路灯の整備など防犯対策の充実 0.86 0.80
交通安全対策の充実 0.76 0.80
バス交通網の整備 1.08 0.96
国道・道道など幹線道路の整備 0.92 0.78
生活道路の維持・補修 1.01 0.90
地域医療の充実 1.23 1.25
健康づくりを実施する対策の充実 0.64 0.62
子育て支援対策の充実 0.91 0.94
高齢者福祉対策の充実 0.90 0.91
障がい者福祉対策の充実 0.75 0.80
農業の振興 0.87 0.89
グリーン・ツーリズム事業の振興 0.17 0.20
地元中小企業の支援 0.66 0.64
商工業の振興 0.72 0.68
商店街の振興 0.86 0.79
観光・レクリエーションの振興 0.54 0.52
企業誘致など雇用の確保 0.89 0.87
学校教育の充実 0.87 0.90
家庭教育の充実 0.55 0.57
社会教育の充実 0.52 0.52
町政に関する情報提供や情報公開 0.91 0.70
町政への町民参加の促進 0.69 0.53
健全な財政運営 1.01 0.95
他市町村との交流による広域連携 0.59 0.51
重要度指数 R06
重要度指数 R02

満足度・重要度指数（相関図）による比較

指数化した満足度と重要度を相関図で示し、比較を行う。

アンケートで質問した項目の満足度指数と重要度指数について、それぞれの指数値で以下のように区分し、分類した。　※各指数の算出方法については、P25 参照





■実数表

		満足度							重要度						
		回答数（n）	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	満足度指数（※）	回答数（n）	重要（他より優先すべき）	やや重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	重要度指数（※）
生活環境	1. 衛生的な上下水道の整備	782	221	258	204	72	27	0.73	707	204	340	133	24	6	1.01
	2. 公園・緑地の整備	774	132	249	260	97	36	0.44	708	62	271	280	72	23	0.39
	3. 景観に配慮したまちづくり	768	80	191	320	126	51	0.16	709	89	279	259	65	17	0.50
	4. 環境に配慮したまちづくり	768	73	184	365	105	41	0.19	705	99	311	257	29	9	0.66
	5. ごみの減量化とリサイクルの推進	782	83	269	289	105	36	0.33	716	145	344	197	26	4	0.84
	6. 災害に強い安全なまちづくり	782	58	174	390	122	38	0.12	717	262	296	142	13	4	1.11
	7. 高度情報化への対応	760	37	114	473	103	33	0.03	710	83	267	320	33	7	0.54
	8. 街路灯の整備など防犯対策の充実	772	59	217	258	171	67	0.04	718	143	369	175	27	4	0.86
	9. 交通安全対策の充実	764	44	171	376	130	43	0.06	713	131	314	242	19	7	0.76
	10. バス交通網の整備	795	34	101	224	255	181	-0.56	732	254	319	131	17	11	1.08
	11. 国道・道道など幹線道路の整備	776	45	149	271	197	114	-0.24	720	182	331	180	19	8	0.92
	12. 生活道路の維持・補修	778	41	138	220	245	134	-0.38	723	188	384	130	15	6	1.01
保健・医療・福祉	13. 地域医療の充実	781	44	156	233	210	138	-0.31	719	314	276	113	9	7	1.23
	14. 健康づくりを実施する対策の充実	772	53	179	407	97	36	0.15	716	101	292	294	20	9	0.64
	15. 子育て支援対策の充実	768	61	134	423	94	56	0.07	718	222	248	219	18	11	0.91
	16. 高齢者福祉対策の充実	791	46	162	363	156	64	-0.04	729	192	310	194	27	6	0.90
	17. 障がい者福祉対策の充実	771	38	126	462	100	45	0.02	723	150	274	273	18	8	0.75
産業	18. 農業の振興	774	54	179	425	89	27	0.19	726	187	282	238	14	5	0.87
	19. グリーン・ツーリズム事業の振興	757	40	132	533	38	14	0.19	713	44	154	422	63	30	0.17
	20. 地元中小企業の支援	756	26	61	515	109	45	-0.11	718	112	281	302	14	9	0.66
	21. 商工業の振興	757	26	74	457	137	63	-0.18	723	129	292	280	16	6	0.72
	22. 商店街の振興	764	23	74	367	206	94	-0.36	726	172	312	218	15	9	0.86
	23. 観光・レクリエーションの振興	764	26	125	434	126	53	-0.07	719	96	261	319	23	20	0.54
	24. 企業誘致など雇用の確保	762	27	54	365	204	112	-0.42	721	207	267	218	19	10	0.89
教育	25. 学校教育の充実	761	32	96	473	113	47	-0.06	724	204	252	244	18	6	0.87
	26. 家庭教育の充実	758	31	66	565	70	26	0.01	721	103	224	367	20	7	0.55
	27. 社会教育（スポーツ・文化・芸術）の充実	763	36	112	469	109	37	0.00	719	102	222	356	27	12	0.52
行政運営	28. 町政に関する情報提供や情報公開	770	43	130	333	154	110	-0.21	727	197	291	217	18	4	0.91
	29. 町政への町民参加の促進	762	30	72	430	135	95	-0.25	725	148	240	306	24	7	0.69
	30. 健全な財政運営	769	33	97	414	135	90	-0.20	728	255	258	190	16	9	1.01
	31. 他市町村との交流による広域連携	769	26	79	482	122	60	-0.14	730	112	255	324	27	12	0.59

問 11　あなたは、将来長沼町がどのような町になることを望みますか？

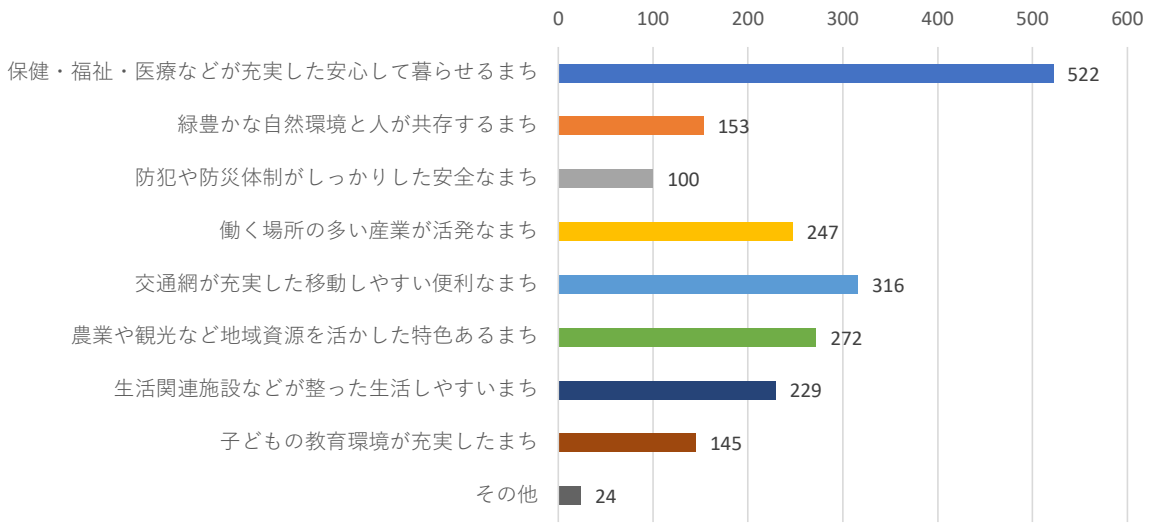
（複数回答（2 つまで））　【n =973】

「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」が最も多く、回答者の 53.6%にあたる 522 名が選択している。以下、「交通網が充実した移動しやすい便利なまち」「農業や観光など地域資源を活かした特色あるまち」「働く場所の多い産業が活発なまち」「生活関連施設などが整った生活しやすいまち」と続く。

区　分	回答数	比率※2
保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち	522	53.6 %
緑豊かな自然環境と人が共存するまち	153	15.7 %
防犯や防災体制がしっかりした安全なまち	100	10.3 %
働く場所の多い産業が活発なまち	247	25.4 %
交通網が充実した移動しやすい便利なまち	316	32.5 %
農業や観光など地域資源を活かした特色あるまち	272	28.0 %
生活関連施設などが整った生活しやすいまち	229	23.5 %
子どもの教育環境が充実したまち	145	14.9 %
その他	24	2.5 %
計	973	※1

※1　回答が有った者の数の計（複数回答のため項目毎回答数の合計と異なる）。

※2　回答者数計（n=973）に対する割合であるため、比率計は100%とならない。



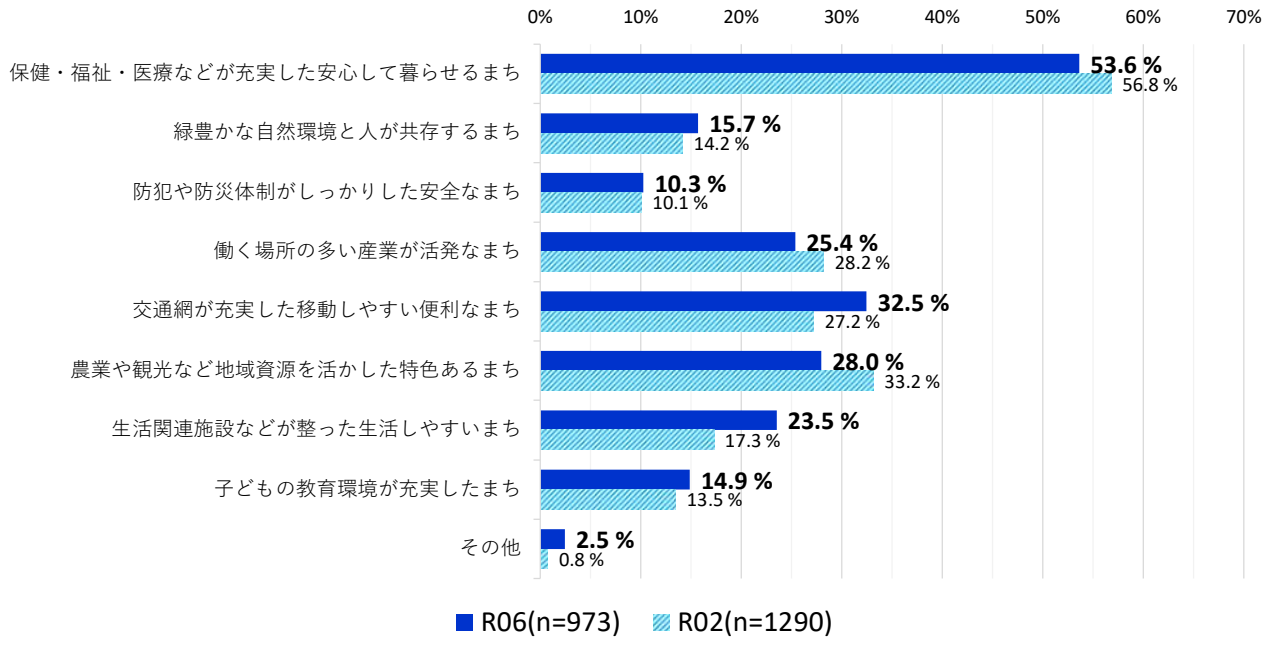
■その他の主な意見

・町民の声を無視しない開かれたまち　・町民に誠実なまち
・お金が稼げるまち　・人口に左右されず税金に頼らず自立したまち
・物作りではなく環境（心）作りのまち
・市街地・商店街が完全なシャッター商店街や空地にならないようなまち
・子育て支援が充実したまち
・どの年代の人も心地よく過ごせる環境があって、結婚･出産･子育て･老後とずっと暮らしたくなるような互いに支え合い楽しく年を重ねられるまち
・今課題の教育環境、生活環境が整い、すでに長沼が持っている最大の魅力の景色や空港/札幌などへのアクセスの良さをうまく伝えることと移住者の受け入れ体制が整えば本当にいい街になります

■参考：望む町の将来像推移

前回調査時点と比較すると、「生活関連施設などが整った生活しやすいまち」「交通網が充実した移動しやすい便利なまち」といった生活基盤に関する項目の増加率が大きくなっている。このほか、「緑豊かな自然環境と人が共存するまち」「子どもの教育環境が充実したまち」などの項目に増加が見られる。

一方、割合が減少した項目は、「農業や観光など地域資源を活かした特色あるまち」「保健･福祉･医療などが充実した安心して暮らせるまち」「働く場所の多い産業が活発なまち」となっている。

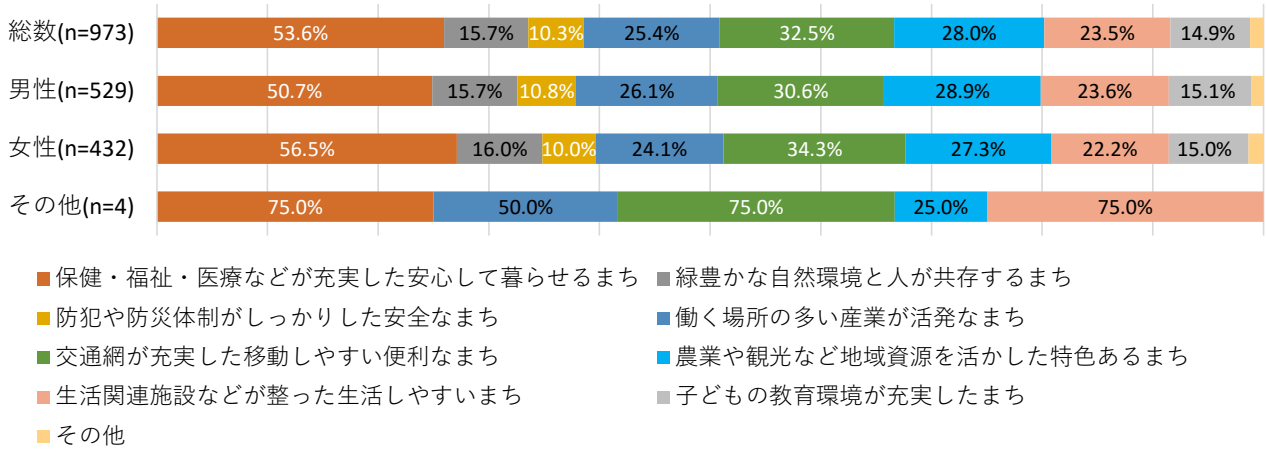


【属性別分析】

※回答者数計 n に対する回答者数の割合であるため、属性毎の比率計は 100%とならない

○性別ごとの特徴

男性、女性ともに同じような傾向を示しているが、「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」「交通網が充実した移動しやすい便利なまち」は、男性に比べて女性の方が高い割合を示している。

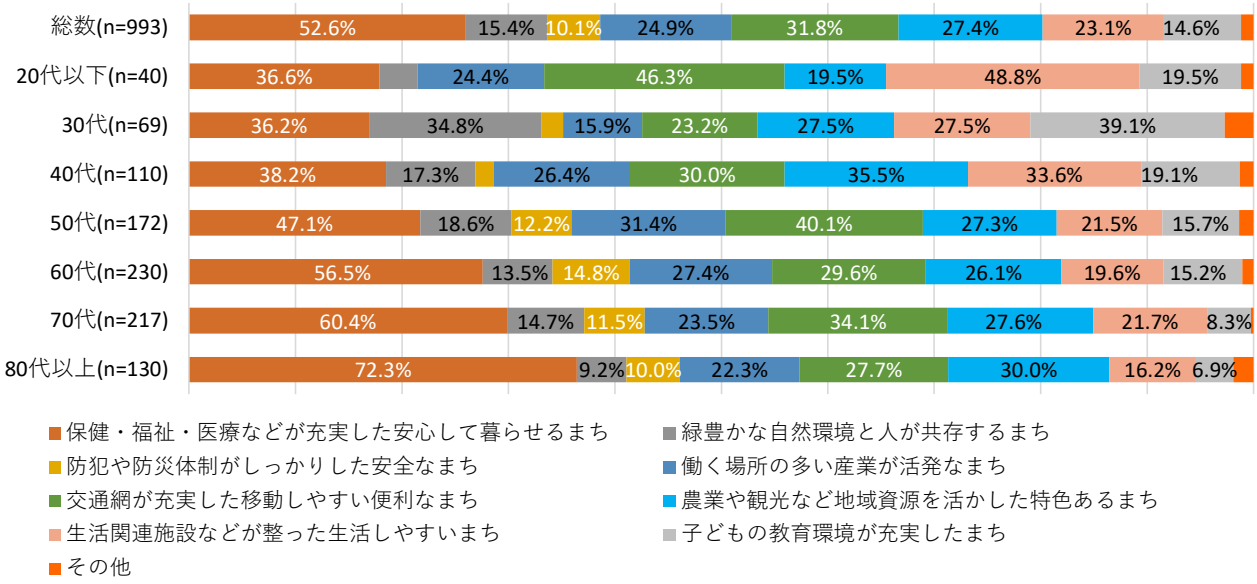


○年代別の特徴

「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」は、年代が上がるにつれて回答割合が高くなっており、80 代以上では 7 割以上の回答者が選択している。

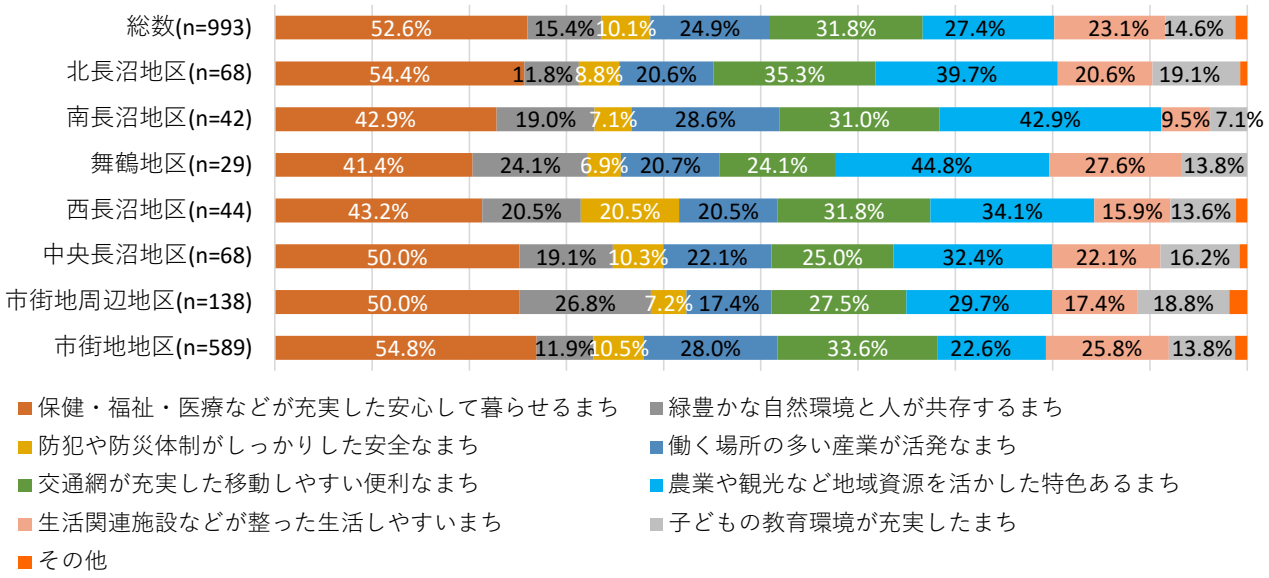
20 代以下では「生活関連施設などが整った生活しやすいまち」「交通網が充実した移動しやすい便利なまち」、30 代では「子どもの教育環境が充実したまち」の割合が高いといった傾向が見られる。

このほかの特徴として、30 代では「緑豊かな自然環境と人が共存するまち」の割合が他の年代よりも突出して高くなっている。



○居住地区別の特徴

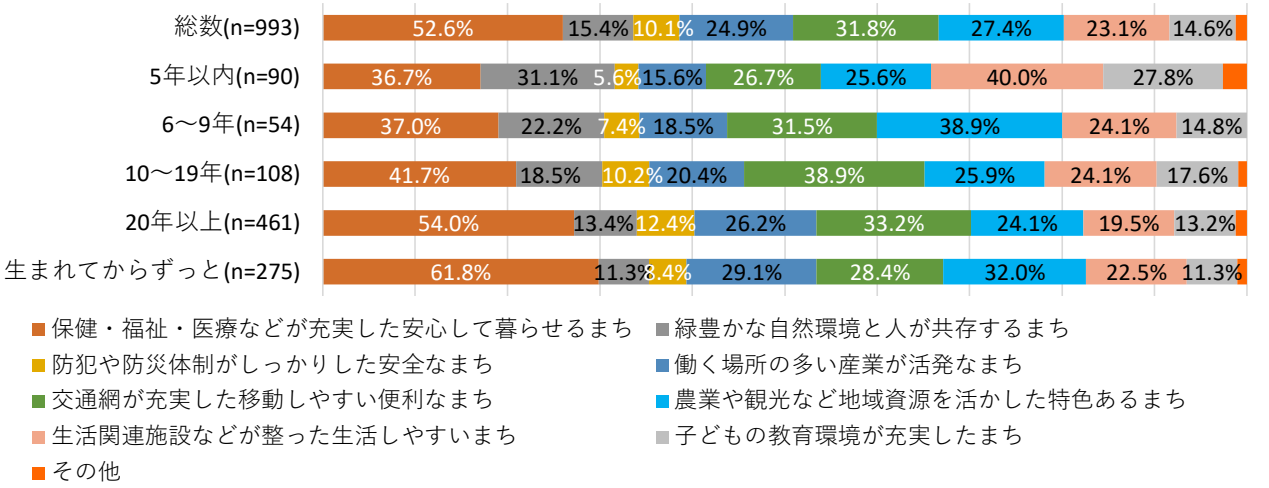
「農業や観光など地域資源を活かした特色あるまち」は、市街地地区より農家地区において割合が高い傾向が見られる。また、舞鶴地区及び市街地周辺地区では「緑豊かな自然環境と人が共存するまち」、西長沼地区では「防犯や防災体制がしっかりした安全なまち」の割合が他の地区に比べて高くなっている。



○居住年数別の特徴

「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」「働く場所の多い産業が活発なまち」は、居住年数が長くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。一方、「緑豊かな自然環境と人が共存するまち」は、居住年数が短いほど割合が高くなる。

また、居住年数５年以内では、「生活関連施設などが整った生活しやすいまち」の割合が、他の層に比べて高くなっている。



問 12　長沼町のまちづくりについて、ご意見やご提案をお持ちでしたらご記入願います。（自由記載）

意見・提案等は 352 名からの回答があり、回答者（1,020 名）に対する記入率は 34.5%であった。

これらの自由記述された意見等を集約すると、記入された意見は 506 件となり、内容ごとの件数は以下のとおりであった。

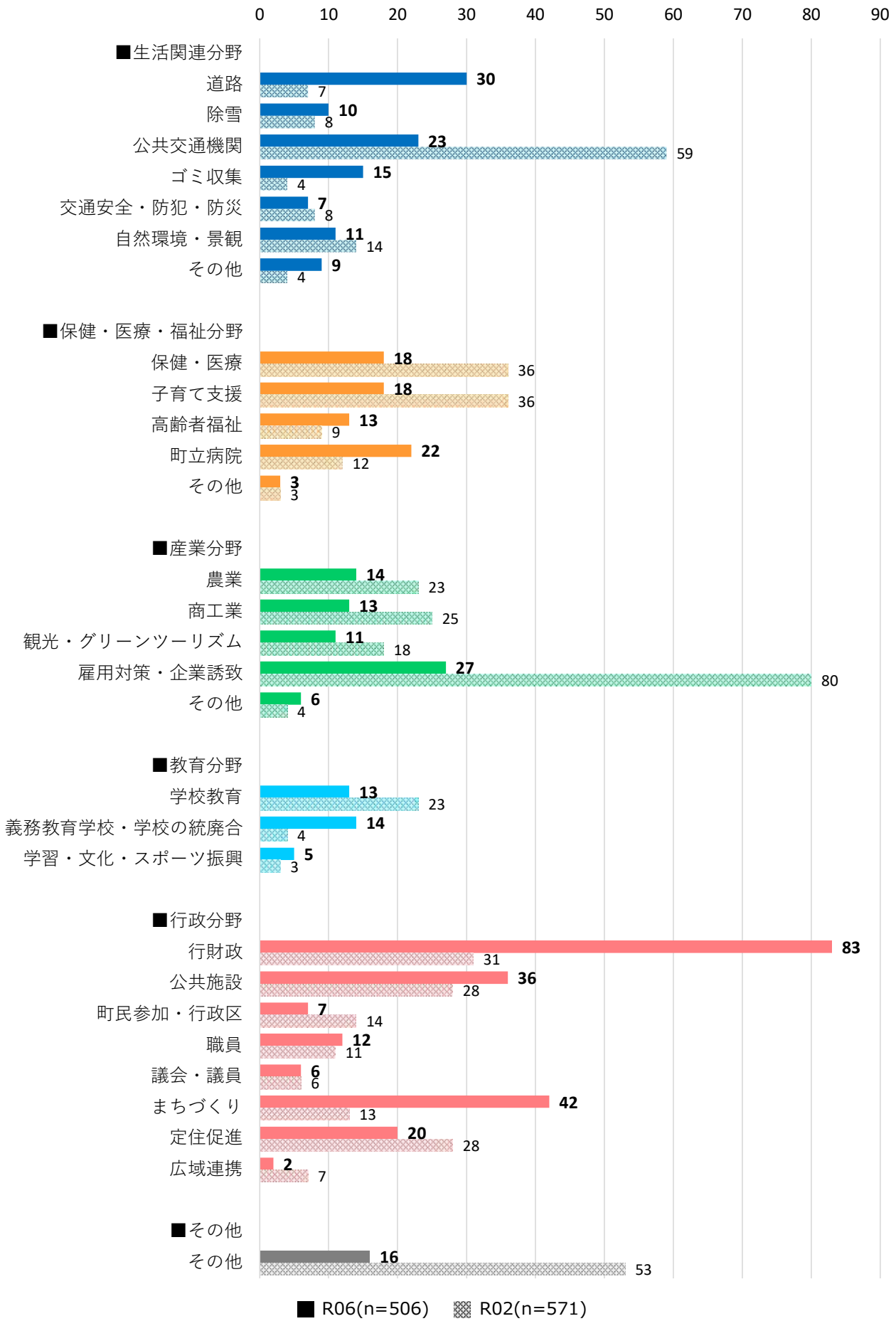
中でも「行財政運営の改善」に関する内容が最も多く、このほか、「道路の維持・補修や街路樹の管理」「公共施設の整備」「雇用対策・企業誘致等の働く場の確保」「公共交通機関・交通網の充実」などについても多くの意見が寄せられた。

分野・項目		意見数
生活環境分野		105
	1.道路	30
	2.除雪	10
	3.公共交通機関	23
	4.ゴミ収集	15
	5.交通安全・防犯・防災	7
	6.自然環境・景観	11
	7.その他	9
保健・医療・福祉分野		74
	8.保健・医療	18
	9.子育て支援	18
	10.高齢者福祉	13
	11.町立病院	22
	12.その他	3
産業分野		71
	13.農業	14
	14.商工業	13
	15.観光・グリーンツーリズム	11
	16.雇用対策・企業誘致	27
	17.その他	6

分野・項目		意見数
教育分野		32
	18.学校教育	13
	19.義務教育学校・学校の統廃合	14
	20.学習・文化・スポーツ振興	5
行政運営分野		208
	21.行財政	83
	22.公共施設	36
	23.町民参加・行政区	7
	24.職員	12
	25.議会・議員	6
	26.まちづくり	42
	27.定住促進	20
	28.広域連携	2
その他		16
合　　計		506

※なお、次ページから分野・項目ごとの主な意見を抜粋し掲載しているが、寄せられたすべての意見は、町長はじめ町職員全員に配布している（問 8，9，11 の自由記載も同様）。

■項目別意見数の推移


0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
■生活関連分野
道路 30 7
除雪 10 8
公共交通機関 23 59
ゴミ収集 15 4
交通安全・防犯・防災 7 8
自然環境・景観 11 14
その他 9 4
■保健・医療・福祉分野
保健・医療 18 36
子育て支援 18 36
高齢者福祉 13 9
町立病院 22 12
その他 3 3
■産業分野
農業 14 23
商工業 13 25
観光・グリーンツーリズム 11 18
雇用対策・企業誘致 27 80
その他 6 4
■教育分野
学校教育 13 23
義務教育学校・学校の統廃合 14 4
学習・文化・スポーツ振興 5 3
■行政分野
行財政 83 31
公共施設 36 28
町民参加・行政区 7 14
職員 12 11
議会・議員 6 6
まちづくり 42 13
定住促進 20 28
広域連携 2 7
■その他
その他 16 53
R06(n=506)
R02(n=571)

分野・項目毎意見一覧

分野・項目	意見数	意見の全体的傾向	主な意見
生活環境分野			
道路	30	○ 道路の舗装や段差の整備、街路樹の伐採、路肩や歩道の除草を求める声が多い	• 生活道路や国道 337 号の補修、歩道や路側帯の草刈りを行うべき。事故が起きてからでは遅すぎる • 市街地の中途半端な街路樹は見た目が悪く、運転の際にも視界が遮られ非常に危険
除雪	10	○ 除雪サービスの質の向上を求める声が多い ○ 雪堆積場の設置を求める声も一定数ある	• 除排雪の技術の向上に努めてほしい • 除雪時間の前倒し、裏道の除雪の充実 • 今の雪堆積場は町から遠すぎる。市街地近くに設けるべきではないか
公共交通機関	23	○ 周辺市町村へのアクセス向上のための交通網整備や、デマンドバスの利便性向上を望む声が非常に多い	• 北広島駅から長沼町までのバスの増便 • 栗山町や恵庭市、千歳市への交通の便の向上 • デマンドバスの本数や経路を増やすなど、もっと使いやすくしてほしい
ゴミ収集	15	○ ゴミの分別方法の見直しや収集方法の改善を求める声が多い	• 農家地区のゴミ収集方法を改善すべき。処理施設までの自己運搬は負担が大きすぎる • 周辺市町に比べてゴミの分別方法が細かすぎる • ゴミ袋が高すぎる
交通安全・防犯・防災	7	○ スピード超過対策などの交通安全に関する意見が多い	• 住宅街の道をスピードを落とさずに走り去っていく車が多いため、対策を望む • 一時停止の標識や横断歩道の整備を望む • 災害時避難場所の整備が不十分
自然景観・環境	11	○ ソーラーパネルの設置による景観の悪化を指摘する声が非常に多い ○ 美しい景観づくり条例の改正や運用の見直しを求める意見も見られる	• ソーラーパネルを設置すると景観が損なわれるため、町内設置に関してルールを設けるべき • この町の財産は景観が大きい。美瑛町のように町として積極的に目的をもって進めるべき • 美しい景観づくり条例など、今にあった改正をすべき
その他	9	○ ねこの放し飼いについて対策を求める意見が複数見られる	• ねこの放し飼いや外でのエサやりを禁止してほしい • ゴミ屋敷を何とかしてほしい • 太陽光発電敷地内の雑草について、設置者に指導すべき • アパート家賃、水道料金が高い

分野・項目	意見数	意見の全体的傾向	主な意見
保健・医療・福祉分野			
保健・医療	18	○ 小児科の新設を求める声が非常に多い ○ 産婦人科、皮膚科を求める声も複数見られる	• 子ども達が安心して暮らせるように小児科がほしい • 今後妊娠を希望しているので、産婦人科等、幅広い医療体制が整ってほしい • 介護保険料の負担が大きい
子育て支援	18	○ 子育て世代への補助・支援をより強化すべきという意見が多い ○ 保育所・学童保育の時間延長や子ども食堂の開催を求める声も複数見られる	• 保育所・学童保育の利用時間延長 • 町による子ども食堂の開催 • 子育てに関するワークショップ等の開催 • ２人目以降保育料無料に関する所得制限の撤廃
高齢者福祉	13	○ 高齢者に対する交通補助等を求める意見が非常に多い ○ 高齢者福祉施設の設置を求める声も複数見られる	• 高齢者が免許返納しやすいような仕組みを考えるべき • 温泉を利用したデイサービス、特別養護老人ホーム、その他福祉施設の整備 • 高齢者への買い物支援
町立病院	22	○ 町立病院の整備、スタッフの接遇改善を求める意見が非常に多い ○ 町立病院の廃止を求める意見も複数見られる	• 町立病院の改築・設備の更新、診療科目の充実 • 医師・看護師・職員の接遇の質の改善、人件費の削減 • 負債を抱える町立病院を廃止し、老人保健医療施設を充実させるべき
その他	3		• 福祉の充実した町になってほしい • 子育て世代や高齢者の優遇はやめてほしい
産業分野			
農業	14	○ 後継者育成、新規就農者の確保、農産物のブランド化や PR のほか、農業研究機関との連携やアライグマ対策に関する意見が見られる	• 血縁に頼らない後継者づくり、新規就農しやすい仕組みづくり、高齢者が働けるような農業の検討 • 南空知の地理を活かした農作物づくりの実践研究 • 長沼町農産物の PR やブランド化。大豆生産日本一は町民ですら知らない
商工業	13	○ 商店街空き店舗対策等、商店街活性化を求める声が非常に多い ○ 町・商工会主催のイベント開催を求める声も複数見られる	• 商店街の空き店舗対策は、町の活性化を図る上で必須 • 商業施設を増やすべき • 町民が集うイベントを積極的に実施してほしい • ジンギスカンとどぶろく以外の特産品を積極的に開発するべき

分野・項目	意見数	意見の全体的傾向	主な意見
観光・ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑ	11	○ ながぬま温泉の改築や、観光の目玉となる施設の整備・活用を求める声が多い	• ながぬま温泉を改築して町外からの誘客を図り、周辺のキャンプ場や公園と連動したレジャー地域として、町内の飲食店や商店とともに盛り上げてほしい • 市街地に宿泊施設、タクシー、観光の目玉となるようなものが不足している
雇用対策・企業誘致	27	○ ファイターズ二軍施設、（大型）商業施設、ラピダス関連企業の誘致による人口増や活性化を求める意見が非常に多い	• ファイターズ二軍施設の誘致。エスコンからも近く、人の往来や移住者も増え、町の PR にもつながる • 大型商業施設の誘致により、人口増、税収増、若者の就職先確保などを図る • 千歳のラピダスに対する動きが近隣市町村に比べて鈍い
その他	6	○ 夕やけ市や夢まつりの開催方法等に関する意見が複数見られる	• 夕やけ市の回数が多すぎる。１回で良い • 夕やけ市や盆踊りなどは商店街が活気づいて良い • 夢まつり等イベントの際の駐車場や会場の確保
[教育分野]			
学校教育	13	○ 給食に関する意見（給食センターの建替、給食無償化等）が非常に多い	• 給食センターを今すぐ建替え、職員の労働環境の確保と安定した給食の提供を図る • 医療費よりも学校給食の無償化を望む • まおい学びの里小学校の支援、長沼高校の魅力向上
義務教育学校建設・学校統廃合	14	○ 義務教育学校について、建設方針に関する意見や、住民説明会・情報公開等を求める意見が見られる	• 先進地事例等も参考に、最良の学校となることを望む。町民会館の機能を持たせるなら、着工前に説明会を実施すべき • 防災上、防犯上の観点から最適な場所に建設すべき • 義務教育学校の建設はスピード感をもって対応すべき • 義務教育学校にかかる費用を町民に公開すべき
学習・文化・スポーツ振興	5	○ スポーツの振興、芸術鑑賞環境の整備等を求める意見が寄せられている	• パークゴルフ人口を増やすための講習会の開催 • マラソン大会の開催 • 演劇、オーケストラ、歌舞伎等が可能なステージの建設。長沼から優れた芸術家たちが生まれる素地となる

分野・項目	意見数	意見の全体的傾向	主な意見
［行政運営分野］			
行財政	83	○ 行政運営にあたり町民との対話を求める声が非常に多く見られるほか、より良い行政運営に向けた幅広い意見が寄せられている ○ 本アンケートの取り扱い（結果の公表、計画への反映）に関する要望も多く見られる	• 重要施策を進める際には、町民の意向を丁寧に拾い上げる工夫や努力が必要 • きめ細かな行政区別の町政懇談会の開催 • 町政の情報公開を適時に行うべき • 人口減少を踏まえ、かなりのスピード感を持って施策を実行する必要がある • アンケート結果はＨＰだけでなく広報誌でも公表し、町政に活かすべき
公共施設	36	○ 町民会館に代わる施設の建設、各種公園や伏古斎場の整備に関する意見が多く見られる	• 町民会館に代わる施設の建設。小学校跡地利用の検討を • 壊れて使用禁止になっている公園の遊具の整備、ベンチ交換、ユニバーサル仕様遊具の有効活用 • 伏古斎場の水道、舗装、入口看板の整備 • 北長沼スキー場リフト料金の町民割引を実施してほしい
町民参加・行政区	7	○ 行政区の運営方法の見直し等に関する意見が寄せられている	• 人口減少により子育てや高齢者の見守り等様々な場面で行政区の重要性が増している • 既存行政区を一部再編し、「地域内で対応し解決」出来るよう、地域コミュニティの活性化につながる施策を希望 • 回覧板の廃止、区費の減額
職員	12	○ 職員の意識改善、地域活動への参加等に関する意見が多く寄せられている	• 住民ファーストの町職員教育の強化 • 各種行事や地域活動への町職員の積極的な参加 • 役場窓口の応対の改善 • 町職員は外に出て、町民の暮らしを把握すべき
議会・議員	6	○ 定員削減等に関する意見が寄せられている	• 町議の人数が多すぎる • 考えの偏りを避けるため、町議にも定年があると良い • 町民も議会に参加できる制度があれば良い

分野・項目	意見数	意見の全体的傾向	主な意見
まちづくり	42	○ 農業や自然環境、観光、企業誘致等、幅広い世代が住みたくなるまちづくりを目指し様々な意見が寄せられている	• 農業や観光に重点を置くとともに、医療・子育てに適したまちづくりを進めるべき • 日本一の美しいまちを作り、一時的な観光客よりも永続的な住民を増やす（例：スウェーデンヒルズ） • 地域に眠る資源を活かし、まるごと街ごと滞在交流型観光地としてリノベーションし活性化を図る
定住化促進	20	○ 空き家活用、賃貸住宅の家賃補助等、移住者への助成を求める意見が多く寄せられている	• 整備した空き家の貸し出し、移住者への家賃補助 • 町営住宅を改築して若い子育て世代や高齢者用のコミュニティ住宅とする • 市街地の空き地やゴルフ場跡地を活用し、分譲地を造成
広域連携・関係人口創出	2	○ 医療や交通等について周辺市町と連携すべきとの意見が寄せられている	• 長沼町単独で医療や交通を維持することは難しいため、千歳市、恵庭市、岩見沢市と協力すべき • 近隣の市町と協働した行政推進、地域医療、廃棄物処理、通信インフラ、防災
［その他］			
	16		• 町公式 LINE で色々なクーポンが配られると良い • 長沼町イメージキャラクターがあると良い • 長沼町の良い点、悪い点を客観視できる人材を広く募る • これからは将来長沼町を引っ張っていく 40 代以下の世代に任せるべき • 北広島、恵庭、千歳どこを見ても活気がある。南幌も人気。長沼は高齢者が多く若い人が少なくなり不安

3. 課　題

調査結果から見える主な政策課題

本調査において、「長沼町は住みよい」と感じている町民は約 25%（問６）、「今後とも長沼町で暮らしたい」と考えている町民は約 66%（問７）である。
前回調査結果と比較すると、いずれもその割合は低下しており、「他の市町村へ転出したい」と考える理由の主なものは、医療・福祉面の不安、買い物・除雪の不便さなど生活環境に対する不満、公共交通機関に対する不満、就業の場が少ないことに起因する雇用に対する不満などである（問８）。

これらは、満足度・重要度調査（問 10）で「重点改善項目」となった『バス交通網の整備』『地域医療の充実』『生活道路の維持・補修』とほぼ一致し、かつ、問 12 の提案・意見（自由記述）においてもこれらの項目について多くの意見が寄せられている。
また、「将来どのような町になることを望むか」（問 11）では、「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」が突出して多いことから、少子高齢化の影響を大きく受けるわが町において、重点対策が必要とされる課題と捉えることが出来る。これらについては、前回調査結果とほぼ同様の傾向である。

本アンケート結果におけるもう一つの特徴としては、行財政運営に対する満足度の低下が挙げられる。満足度・重要度調査では、「町政に関する情報提供や情報公開」を始めとする行財政運営に関する項目の満足度が、前回調査と比較して大きく低下している。また、問 12 の自由記述でも、行財政運営の進め方に対する苦言が非常に多く寄せられており、早急な改善が必要なものと考えられる。

以上の結果を踏まえ、主な政策課題を以下にまとめる。

医療・福祉が充実し、災害に強い安心して暮らせるまちづくり

町の将来像について、「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」が最上位であるほか、満足度・重要度調査では、「地域医療の充実」の重要度が最も高く、満足度が低い結果となっている。また、重要度では「災害に強い安全なまちづくり」も上位であった。

自由記述においても、子育て世代からの小児科・産婦人科の新設を求める声や、町立病院の充実や経営改善（病院廃止を含む）に関する意見、高齢者福祉施設の整備要望など、年代を問わず安心して暮らし続けられる環境づくりを求める声が多く寄せられている。

これらのことから、年代を問わない医療・福祉の充実、高齢化に伴う日常生活の不安不満の解消など、町民が安心して暮らすことの出来るまちづくりを目指す施策が必要である。

交通網が発達し、定住環境が整った住みよいまちづくり

町の将来像について、「交通網が充実した移動しやすい便利なまち」の割合が前回調査よりも増加し、保健・福祉・医療に次いで２番目に多い結果となっている。加えて、満足度・重要度調査では、「バス交通網の整備」が重点整備項目となり、定住を進め人口を増やすために町が重点的に取組む施策としても、「公共交通機関の充実」が幅広い世代から選ばれ最上位となっている。

また、前回調査と比べて「生活道路の維持・補修」「国道・道道など幹線道路の整備」の満足度が大きく低下しているほか、自由記述でも道路の舗装、歩道の除草、街路樹の管理等に関する意見が多く見られ、交通網だけでなく、その基盤となる道路自体の改善も求められている。「免許を返納しても住めるまち」を目指すべきとの声も非常に多く寄せられており、今後の更なる人口減少、少子高齢化を見据えた効果的な対策を講じる必要がある。

本町は、さっぽろ連携中枢都市圏及び南空知定住自立圏に属する地域特性を活かし、近隣市町村と連携して地域住民の広域移動を支える持続可能な交通ネットワークを確保するとともに、町民ニーズに寄り添った交通サービスの提供や道路基盤の整備に努め、定住環境が整った住みよいまちづくりを目指す施策が必要である。

雇用が確保され、地域資源を活かした特色ある産業が展開される活力あるまちづくり

町の将来像について、「農業や観光など地域資源を活かした特色あるまち」及び「働く場所の多い産業が活発なまち」を望む声が多く、また、満足度・重要度調査では、「商店街の振興」、「地元中小企業の支援」、「企業誘致などの雇用の確保」などの第２次、３次産業に係る項目について軒並み満足度が低い結果となっている。

また、定住を進め人口を増やすために町が重点的に取組む事項として、「企業誘致などの

働く場づくり」が上位に挙げられており、自由記述においても、人口増・就業場所の確保に向けた企業誘致を望む声は多く、特に千歳市の半導体工場（ラピダス）、北広島市のボールパーク、道央圏連絡道路の全線開通などを見据えた積極的な誘致活動を求める意見が多く見られる。

一方で、「農業」「食」「観光」「美しい自然景観」などの地域資源を活かし、長沼町らしさに重点を置いた特色ある産業の展開を望む声も多く見られた。また、空地・空き家・空き店舗対策を積極的に行うことにより、景観の向上、地域活性化、定住促進などを図るべきとの提案も多く寄せられた。

これらのことから、町の基幹産業である農業を基軸として、地域資源を活用し他産業を活性化させる仕組みを構築し、雇用の創出、まちの活性化につながるような施策を講じる必要がある。

開かれた行政と協働のまちづくり

満足度・重要度調査では、行財政運営に関する４項目「町政に関する情報提供や情報公開」「町政への町民参加の促進」「健全な財政運営」「他市町村との交流による広域連携」の満足度が、前回調査と比較して軒並み大幅に低下する結果となった。

自由記述でも、行財政運営に関する意見・提案の件数が圧倒的に多く寄せられており、「重要施策を進める際には、町民の意向を丁寧に拾い上げる工夫や努力が必要」「きめ細かな行政区別の町政懇談会を開催すべき」といった内容がその多くを占めている。このような声は、義務教育学校の建設に伴う町民会館の廃止や学校給食センターの運営など、町民生活に大きく関わる施策について、町民に対する事前の説明や公聴機会が不足していたことを発端として上げられたものである。

よりよいまちづくりを実現するためには、町政の現状について町民へ広く情報提供するとともに、町民の生の声を聞き、各種施策に活かすことが重要である。今回のアンケート結果を踏まえ、改めて情報提供や公聴の在り方を見直した上で、町民と行政の協働により誰にとっても魅力のあるまちづくりを推進していく必要がある。